

2004 年春季年会

年会プログラム

於 名古屋大学

2004 年 3 月 22 日 (月) ~ 3 月 24 日 (水)

日 本 天 文 学 会

<年会プログラムは、取り外せます。>

日本天文学会 2004 年春季年会プログラム

場 所 名古屋大学東山キャンパス (案内図参照)

〒 464-8602 名古屋市千種区不老町

電話 090 - 4387 - 6893 <使用期間 2004 年 3 月 21 日 (日) ~ 3 月 24 日 (水) >

日 程

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
3月21日 (日)							記者会見					
							公開講演会					
3月22日 (月)	A	T. 銀 河 団		昼休み (理事会)	ポスター	T. 銀 河 団		天文教育 フォーラム	特別セッション Astro-E2			
	B	A. G R B				A. G R B						
	C	Y. 教 育・他				R. 銀 河						
	D	U. 宇 宙 論				U. 宇 宙 論						
	E	N. 恒 星				N. 恒 星						
	F	S. 銀 河 核				S. 銀 河 核						
	G	ジュニアセッション				ジュニアセッション						
	H	K. 天力 / L. 太陽系				L. 太 陽 系						
3月23日 (火)	A	P. 星・惑 星		ポスター	昼休み (評議員会)	P. 星・惑 星		総 会 受 付 終 了 確 認	総 会	研 究 奨 励 賞 受 賞 記 念 講 演	懇 親 会	
	B	Q. 星 間				Q. 星 間						
	C	R. 銀 河				R. 銀 河						
	D	W. 飛 翔 観				W. 飛 翔 観						
	E	M. 太 陽				M. 太 陽						
	F	V. 地 上 観				V. 地 上 観						
	G	H. 高密度天体				H. 高密度天体						
3月24日 (水)	A	P. 星・惑 星		ポスター	昼休み			特別セッション ALMA				
	B	Q. 星 間				Q. 星 間						
	C	R. 銀 河				R. 銀 河						
	D	W. 飛 翔 観				W. 飛 翔 観						
	E	M. 太 陽				M. 太 陽						
	F	V. 地 上 観				V. 地 上 観						
	G	H. 高密度天体				H. 高密度天体						

A 会場：共通教育棟 1 F (1A)

B 会場：共通教育棟 1 F (1B)

C 会場：共通教育棟 2 F (2A)

D 会場：共通教育棟 2 F (2B)

E 会場：共通教育棟 3 F (3A)

F 会場：共通教育棟 3 F (3B)

G 会場：共通教育棟 3 F (3C)

H 会場：共通教育棟 3 F (35 番)

受 付 : 共通教育棟 1 F ホール

ポスター会場 1-1, 1-2, 1-3 : 共通教育棟 1 F

ポスター会場 2-1, 2-2, 2-3 : 共通教育棟 2 F

会議室 1 : 共通教育棟 1 F (14 番)

会議室 2 : 共通教育棟 3 F (36 番)

懇親会会場 : 生協食堂フレンドリィ南部

◎講演数

講演数：合計 597

(口頭講演 (a)：328、ポスター講演 (b)：215、ポスター講演 (c)：54)

◎参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円	5,000 円
(但し会員で講演有りの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円	5,000 円 (1 講演につき)
年 会 予 稿 集	2,000 円	2,000 円 (購入希望者のみ)

※参加費・講演登録料は、会期中に受付にて忘れずにご納付下さい。

※講演申し込み後にキャンセルしても、講演登録費を支払う必要があります。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 8 会場で行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、3 日間掲示できます。ポスターは縦 180 × 横 90 cm まで掲示できます。ポスター会場の指定された場所に、3 月 22 日の 9:30 から 3 月 24 日の 13:00 まで掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。
3. 講演には OHP または液晶プロジェクターをご使用下さい。(液晶プロジェクターの使用に際しては、セッション開始迄に接続を確認し、念のため OHP での発表もできるようにしておいて下さい。また迅速に講演者交代を行うためケーブル切り替え器を用意していますので、一つ前の講演中に計算機の接続をして待機して下さい。)

◎会期中の行事

1. 記 者 会 見 : 21 日 (日) 13:30 ~ 名古屋市科学館
学会講演の中から、数件のトピックスを選び、記者会見を行います。
2. 公 開 講 演 会 : 21 日 (日) 14:00 ~ 17:00 名古屋市科学館
3. 理 事 会 : 22 日 (月) 12:00 ~ 13:00 会議室 1
4. 教 育 フ ォ ー ラ ム : 22 日 (月) 16:00 ~ 17:20 G 会場
5. 特別セッション (Astro-E2): 22 日 (月) 17:20 ~ 19:00 G 会場
6. 評 議 員 会 : 23 日 (火) 12:30 ~ 13:30 会議室 1
7. 総 会 : 23 日 (火) 15:30 ~ 17:00 G 会場
(15:30 ~ 16:00 総会出席者確認、16:00 総会開始)
各賞の受賞
主な議題 = ○ 2003 年度事業報告
○ 2003 年度決算報告
○ 監査報告
8. 研究奨励賞受賞記念講演 : 23 日 (火) 17:00 ~ 18:00 G 会場
「X 線背景放射の起源と活動銀河核の宇宙論的進化の解明」 上田佳宏 (JAXA/ISAS)
「WMAP と初期宇宙：インフレーション理論にせまる」 小松英一郎 (Univ.of Texas at Austin)
9. 懇 親 会 : 23 日 (火) 18:30 ~ 生協食堂
10. 特別セッション (ALMA) : 24 日 (水) 15:00 ~ 16:30 G 会場

◎天文教育フォーラム

共催：天文教育普及研究会

テーマ：「天文分野、これを教えたい、これを教えてほしい」

日時：2004年3月22日(月) 16:00～17:20

場所：G会場

概要：ここ数年、すばる望遠鏡や科学衛星の観測成果が教科書に掲載されるようになってきました。しかし、次々にいろいろな天文学の研究成果が出る中、教科書や各種資料集などで、学校教育現場で取り上げてほしいこと、学んでほしいことはまだまだあると思います。そこで、今回の学習指導要領の一部改訂を見据えて、「新しい科学の教科書」の執筆者に基調講演をしていただくとともに、理科の教科書の監修に携わっている研究者の方、また学校の先生の方からも「わたしたちはこれを教えたい」「これを教えてほしい」といった意見を出していただきたいと思います。また、図鑑監修や一般普及書を執筆している立場の方からもコメントしていただきます。これらの意見やコメントをふまえ、全体討論を行って、教育普及者側・研究者側から、「学んでほしい内容」についての提案を行うことができればと思います。

内容：○基調講演「新しい科学の教科書について」 左巻健男(京都工芸繊維大)
○コメント「教科書執筆～研究者の立場で～」 家正則(国立天文台)
○コメント「学校教員の立場」 五島正光(巣鴨中学・高等学校)
○コメント「一般普及書執筆者の立場」 杉山直(国立天文台)
○コメント「図鑑監修の立場」 半田利弘(東京大学理学部天文学教育研究センター)
○総合討論

実行委員：矢治健太郎(かわべ天文公園)、鈴木雅夫(名古屋科学館)
沢 武文(愛知教育大学)、加藤万里子(慶応義塾大学)

◎ Astro-E2 特別セッション

「X線天文衛星 Astro-E2 の拓く宇宙物理学」主 催：Astro-E2 サイエンスワーキンググループ
共 催：高エネルギー宇宙物理学連絡会

日時：2004年3月22日(月) 17:20～19:00

場所：G会場

概要：Astro-E2 衛星は、2005年1-2月の打ち上げを目指して現在準備が進められています。X線天文学では現在 ASCA が切り拓いた 10keV までの波長域を米国の Chandra 衛星、欧州の XMM-Newton 衛星が観測を続け、その高い空間分解能と大きな有効面積で天文学を展開しています。Astro-E2 はこれらの衛星に無い高いエネルギー分解能と広い波長域に感度を持って、新たな切り口で宇宙の謎に挑みます。6keV で 10eV を切る分解能 ($E/dE=1000$) により、輝線のドップラー効果から X 線を放射する高エネルギー現象の運動を初めて明らかにできます。特に強い鉄輝線のある 6-7keV 付近では、これまでよりはるかに感度も高く、また分散系では無いため、拡がった天体でも高いエネルギー分解能が実現できます。一方、硬 X 線検出器により 10keV を超える高エネルギー側の観測帯域も切り開かれ、高エネルギー現象の物理の全容が解明できると期待されます。

本特別セッションでは、まず、Astro-E2 ミッションの特徴と観測公募について紹介があります。次に Astro-E2 が明らかにする宇宙物理学を三人の方に講演して頂きます。まず、X 線プロパーの方に銀河団を中心に高温プラズマの元素組成や運動学を中心にしたサイエンスの可能性を議論して頂きます。次に他の波長からの立場から、銀河中心核へどう切り込むか、また星生成領域や YSO の解明に向けどのように協力して研究を進めることができるのか、その可能性を議論して頂きます。

Astro-E2 衛星では打ち上げ半年以降は、公募観測となります。この特別セッションで Astro-E2 への理解を深めて頂き、2004年6月頃にアナウンスされる観測提案公募に多くの天文関係者が応募されることを期待しています。

プログラム：1. あいさつ 井上 一 (宇宙航空研究開発機構)
2. Astro-E2 衛星の概要と観測公募 満田和久 (宇宙航空研究開発機構)
3. サイエンス 1 大橋隆哉 (東京都立大)
4. サイエンス 2 亀野誠二 (国立天文台)
5. サイエンス 3 田村元秀 (国立天文台)

世話人：國枝秀世(宇宙航空研究開発機構)、鶴 剛 (京都大)、大橋隆哉(東京都立大)

連絡先：鶴 剛 tsuru@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp 電話：075-753-3868 FAX: 075-753-3799

◎ ALMA 特別セッション

「アルマイよいよ建設へ」

主 催：日本学術会議天文学研究連絡委員会、日本学術会議天文学国際共同観測専門委員会
日本学術会議電波科学研究連絡委員会 J 分科会、日本天文学会
国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会

日 時：2004年3月24日（水）15：00～16：30

場 所：G会場

概 要：日本のアルマ建設経費も2004年度より認められる公算が高くなってきています。予算額もほぼ決まり、日本が正式に参加する協定調印を目前にして、アルマとはどのような装置で、日本はそのどの部分をつくり、何を得るのかについて、はっきりとその情報を天文学会員にお伝えします。また、運用開始後は、国際協力という舞台での厳しい競争が予想されますが、その中で日本の天文学コミュニティがどのような独自の優位性を打ち出してサイエンスを展開していくかの指針を共有するための討論も、あわせて行います。

プログラム：1. あいさつ

2. アルマ全体の科学的目標と日本の建設計画

日本は何を作り、何を得るのか、ACAのメリット、運用のしかた、観測はいつからできるのか、TACはどうなるか、など。

3. 日本の独自性をどう出すか（パネル討論形式）

「すばる」や赤外線、X線観測衛星との連携による相乗効果
意識的かつ組織的な準備研究、その態勢づくり
総合討論

世 話 人：福井康雄（名大理）、水野範和（名大理）、長谷川哲夫（国立天文台）

連 絡 先：長谷川哲夫 <tetsuo.hasegawa@nao.ac.jp>

国立天文台 電話 0422-34-3843 FAX 0422-34-3764

◎日本天文学会公開講演会

日本天文学会・名古屋市科学館 共催

テ ー マ：「宇宙への^{いざな}誘い」

日 時：2004年3月21日（日）14：00～17：00（開場13：30）

場 所：名古屋市科学館サイエンスホール

対 象：中学生以上・一般向け

講 演 I：宇宙に潜む魔物に挑む

講 演 者：國枝秀世（宇宙航空研究開発機構・教授）

講 演 II：不思議な宇宙の構造

講 演 者：松原隆彦（名古屋大学理学研究科・助教授）

※入場無料、事前の参加申し込みが必要です。インターネットもしくは往復はがきでお申し込みください。締め切りは2月29日（日）です。応募者多数の場合は抽選になります。

インターネットの場合は、

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/kouenkai>

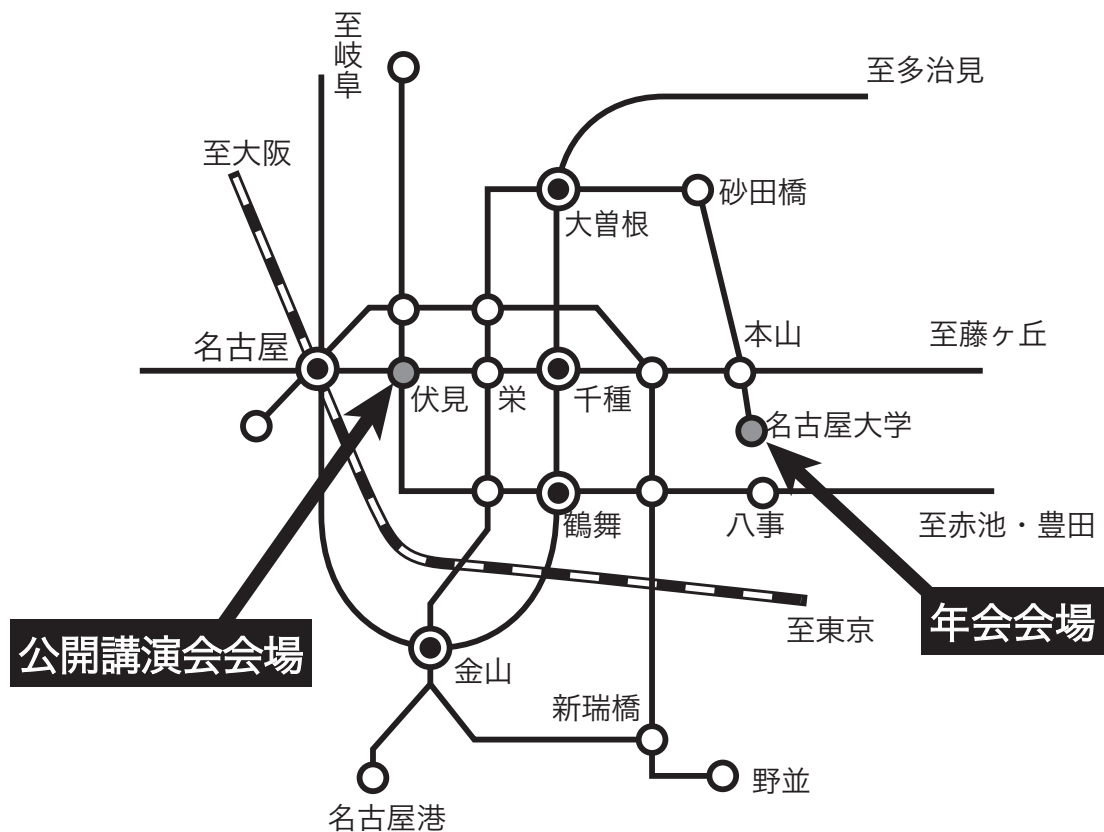
往復はがきの場合は、

住所、氏名、年齢、職業、電話番号をご記入の上、

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1

名古屋市科学館 日本天文学会 公開講演会係 まで郵送下さい（消印有効です）。

春季年会会場(名古屋大学)のご案内



交通案内

公開講演会会場

JR名古屋駅

↓地下鉄東山線 約2分

伏見駅

5番出口より南へ徒歩5分

↓

名古屋市科学館
サイエンスホール

年会会場

JR名古屋駅

↓地下鉄東山線 約14分

本山駅

↓地下鉄名城線 約2分

名古屋大学駅

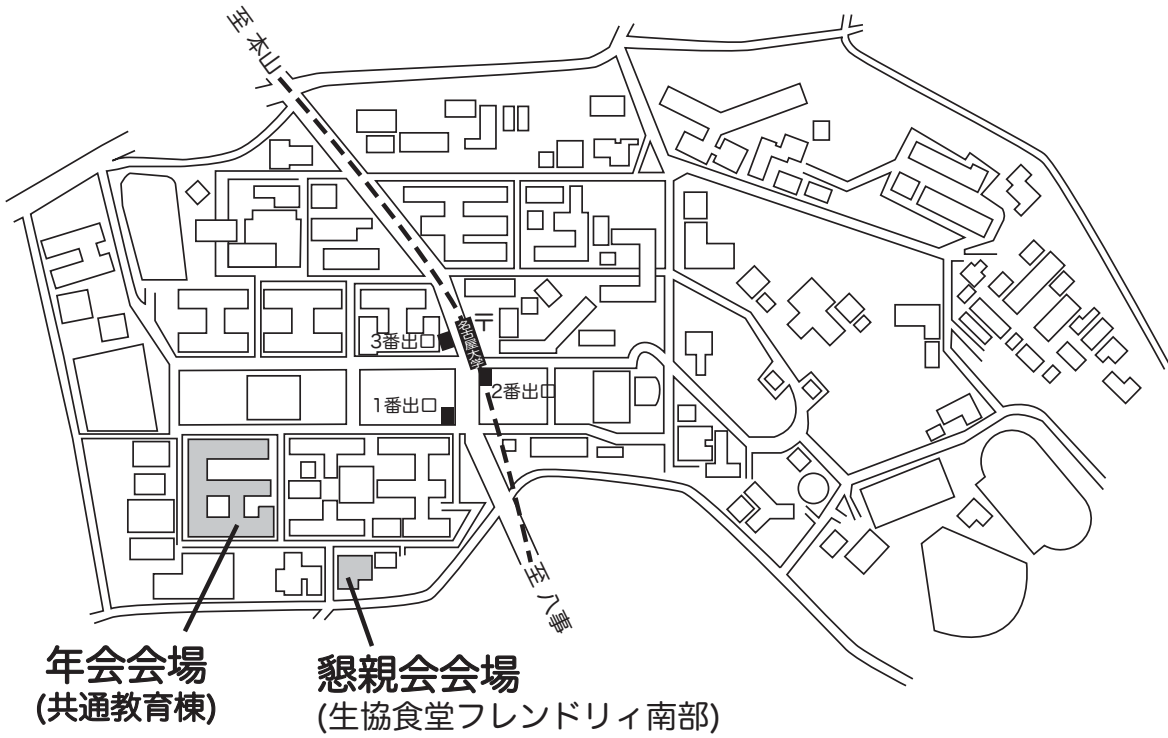
1番出口より西へ徒歩5分

↓

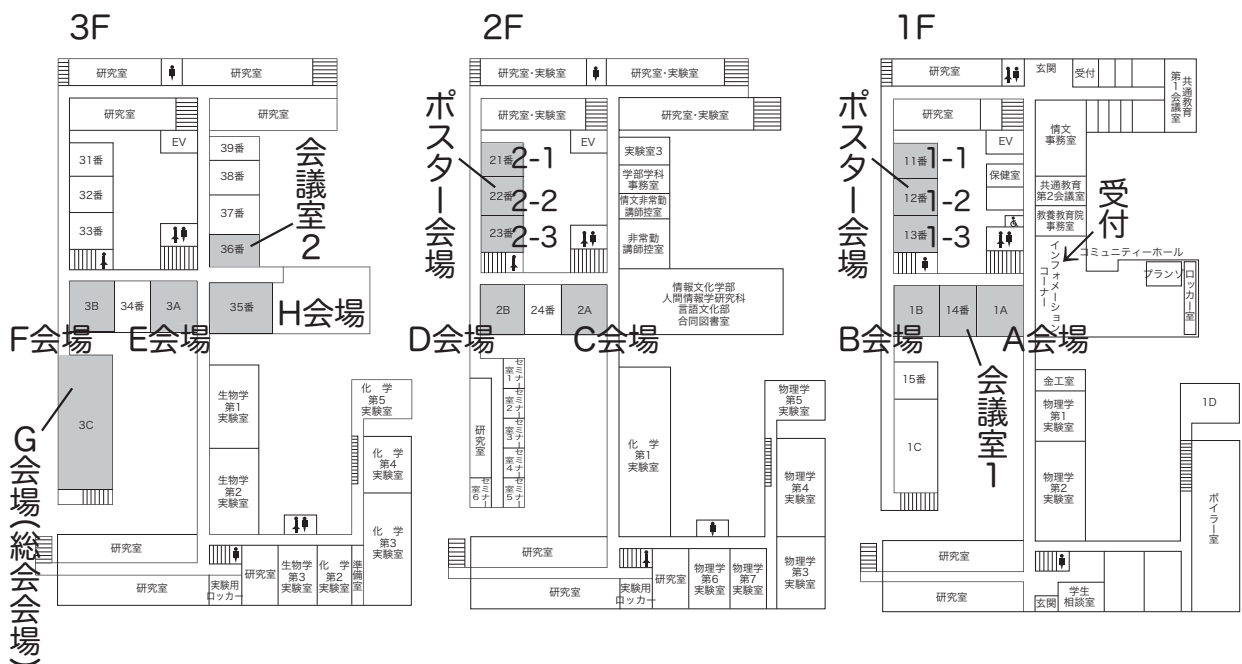
名古屋大学 共通教育棟

年会会場案内図

(名古屋大学東山キャンパス)



共通教育棟



□頭セッション 3月22日(月)

開始時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場
	【銀河団】	【GRB】	【教育】	【宇宙論】	【恒星】	【銀河核】		【天力/太陽系】
10:00	T01b - T03b	A01a ∪ A12b	Y01a	U01a	N01a	S01a	ジュニアセッション	K01a
10:12	T04a		Y02a	U02a	N02a	S02a		K02a
10:24	T05a		Y03a	U03a	N03a	S03a		K03a
10:36	T06b - T08b		Y04a	U04a	N04a	S04a		K04b - K06b
10:48	T11a		Y05a	U05a	N05b - N07b	S05a		K07b
11:00	T12a		Y06b - Y08b	U06a	N09a	S06b - S08b		L01b - L03b
11:12	T13a		Y09b - Y11b	U07a	N10a	S10b - S12b		L04a
11:24	T14a		Y12b - Y14b	U08a	N11b - N13b	S13b - S15b		L05b - L07b
11:36	T15a		Y15b	U09b - U11b	N14b, N15b, N18b	S16b - S18b		L08a
11:48	T16a		-	U12b	N19b, N20b	S19b		L09b - L11b
12:00	昼休み							
13:00	ポスター							
	【銀河団】	【GRB】	【銀河】	【宇宙論】	【恒星】	【銀河核】		【太陽系】
14:00	T17a	A18a ∪ A28a	R01a	U14a	N22a	S20a	ジュニアセッション	L14a
14:12	T18a		R02a	U15a	N23a	S21a		L15a
14:24	T19a		R03b - R05b	U16a	N24a	S22a		L16a
14:36	T20a		R06a	U17a	N25a	S23a		L17a
14:48	T21a		R07a	U18a	N26a	S24a		L18b - L20b
15:00	-		R08a	U19a	N27a	S25a		L23a
15:12	-		R09b - R11b	-	N28a	S26a		L24a
15:24	-		R12b - R14b	-	N29a	S27a		L25a
15:36	-		R16b - R18b	-	N30a	S28a		L26b - L28b
15:48	-		R19b - R22b	-	N31a	-		L29b
16:00	天文教育フォーラム							
17:20	特別セッション (Astro-E2)							

□頭セッション 3月23日(火)

開始時刻	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場
	【星・惑星】	【星 間】	【銀 河】	【飛翔観】	【太 陽】	【地上観】	【高密度天体】
09:00	P01a	Q01b - Q03b	R26a	W02b - W04b	M01a	V01a	H01a
09:12	P02a	Q05b - Q07b	R27a	W05a	M02a	V02a	H02a
09:24	P03a	Q08b - Q10b	R28a	W06a	M03a	V04b - V06b	H03a
09:36	P04a	Q12b - Q14b	R29a	W07a	M04a	V07b - V09b	H04a
09:48	P05a	Q17a	R30a	W08a	M05a	V10a	H05a
10:00	P06a	Q18a	R31b - R33b	W09a	M06a	V11a	H06a
10:12	P07b - P09b	Q19a	R34a	W10a	M07a	V12b - V14b	H07a
10:24	P10b - P12b	Q20a	R35a	W11a	M08a	V15b - V17b	H08a
10:36	P13b - P15b	Q21a	R36a	W12a	M09a	V19b,V20b, V22b	H09a
10:48	P16b - P18b	Q22a	R37a	W13b - W15b	M10b - M12b	V26b - V28b	H10b - H12b
11:00	P19b - P21b	Q23a	R38a	W16a	M13b - M15b	V29b,V30b, V32b	H13b - H15b
11:12	P22b	Q24a	R39a	W17a	M16b - M18b	V33b,V35b, V37b	H16a
11:24	-	-	R40b - R42b	W18b	M19b	V38b - V41b	H17b,H18b
11:30	ポスター						
12:30	昼休み						
	【星・惑星】	【星 間】	【銀 河】	【飛翔観】	【太 陽】	【地上観】	【高密度天体】
13:30	P24a	Q25a	R43a	W19a	M21a	V42a	H21a
13:42	P25a	Q26a	R44a	W20b - W22b	M22a	V43a	H22a
13:54	P26a	Q27a	R45a	W24a	M23a	V44b,V48b, V49b	H23b - H25b
14:06	P27a	Q28a	R46a	W25b - W27b	M24a	V50b - V52b	H26a
14:18	P28a	Q29a	R47a	W28b - W30b	M25a	V53b - V55b	H27a
14:30	P29a	Q30a	R48a	W32a	M26a	V56a	H28a
14:42	P30a	Q31a	R49a	W33b - W35b	M27a	V57a	H29a
14:54	P31a	Q32a	R50a	W36b - W38b	M28a	V58a	H30a
15:06	P32a	Q33a	R51a	W39b - W41b	M29a	V59b - V61b	H31b - H33b
15:18	P33a	Q34a	R52a	W42a	M30a	V64b	H34b - H36b
15:30	総会						
17:00	研究奨励賞受賞記念講演						
18:30	懇親会						

□頭セッション 3月24日(水)

開始時刻	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場
	【星・惑星】	【星 間】	【銀 河】	【飛翔観】	【太 陽】	【地上観】	【高密度天体】
09:00	P34a	Q35a	R53a	W43a	M31a	V67a	H37a
09:12	P35a	Q36a	R54a	W44a	M32a	V68a	H38a
09:24	P36a	Q37a	R55a	W45a	M33a	V69a	H39a
09:36	P37a	Q38a	R56a	W46a	M34a	V70a	H40a
09:48	P38a	Q39a	R57a	W47a	M35a	V71a	H41a
10:00	P39a	Q40a	R58a	W48a	M36a	V72a	H42a
10:12	P40a	Q41a	R59a	W49a	M37a	V73a	H43a
10:24	P41a	Q42a	R60a	W50a	M38a	V74a	H44a
10:36	-	Q43a	R61a	W51a	M39a	V75a	H45a
10:48	-	-	R62a	W52a	M40a	V76a	H46a
11:00			R63a				
11:00	ポスター						
12:00	昼休み						
開始時刻	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場
		【星 間】	【銀 河】	【飛翔観】	【太 陽】	【地上観】	【高密度天体】
13:00		Q44a	R65a	W53a	M41a	V77a	H47a
13:12		Q45a	R66a	W54a	M42a	V78a	H48a
13:24		Q46a	R67a	W55a	M43a	V79a	H49a
13:36		Q47a	R68a	W56a	M44a	V80a	H50a
13:48		Q48a	R69a	W57a	M45a	V81a	H51a
14:00		Q49a	R70a	W58a	M46a	V82a	H52a
14:12		Q50a	R71a	W59a	-	V83a	H53a
14:24		-	R72a	W60a	-	V84a	H54a
14:36		-	R73a	W61a	-	V85a	H55a
14:48		-	R74a	W62a	-	-	H56a
15:00	特別セッション (ALMA)						

<p>〈会場 P 1 - 1〉</p> <p>【天体力学】 (4)</p> <p>K04b K05b K06b K07b</p> <p>【太陽】 (11)</p> <p>M10b M11b M12b M13b M14b M15b M16b M17b M18b M19b M20c</p> <p>【地上観測機器】 (37)</p> <p>V03c V04b V05b V06b V07b V08b V09b V12b V13b V14b V15b V16b V17b V18c V19b V20b V21c V22b V23c V24c V25c V26b V27b V28b V29b V30b V31c V32b V33b V34c V35b V36c V37b V38b V39b V40b V41b</p>	<p>〈会場 P 2 - 1〉</p> <p>【銀河】 (27)</p> <p>R03b R04b R05b R09b R10b R11b R12b R13b R14b R15c R16b R17b R18b R19b R20b R21b R22b R23c R24c R25c R31b R32b R33b R40b R41b R42b R64c</p> <p>【活動銀河核】 (14)</p> <p>S06b S07b S08b S09c S10b S11b S12b S13b S14b S15b S16b S17b S18b S19b</p> <p>【銀河団】 (8)</p> <p>T01b T02b T03b T06b T07b T08b T09c T10c</p>
<p>〈会場 P 1 - 2〉</p> <p>【地上観測機器】 (20)</p> <p>V44b V45c V46c V47c V48b V49b V50b V51b V52b V53b V54b V55b V59b V60b V61b V62c V63c V64b V65c V66c</p> <p>【星・惑星形成】 (17)</p> <p>P07b P08b P09b P10b P11b P12b P13b P14b P15b P16b P17b P18b P19b P20b P21b P22b P23c</p> <p>【星間現象】 (16)</p> <p>Q01b Q02b Q03b Q04c Q05b Q06b Q07b Q08b Q09b Q10b Q11c Q12b Q13b Q14b Q15c Q16c</p>	<p>〈会場 P 2 - 2〉</p> <p>【G R B】 (14)</p> <p>A06b A07b A08b A11b A12b A13c A14c A15c A16c A17c A21b A22b A23b A29c</p> <p>【高密度天体】 (19)</p> <p>H10b H11b H12b H13b H14b H15b H17b H18b H19c H20c H23b H24b H25b H31b H32b H33b H34b H35b H36b</p> <p>【恒星】 (15)</p> <p>N05b N06b N07b N08c N11b N12b N13b N14b N15b N16c N17c N18b N19b N20b N21c</p> <p>【宇宙論】 (5)</p> <p>U09b U10b U11b U12b U13c</p>
<p>〈会場 P 1 - 3〉</p> <p>【太陽系】 (20)</p> <p>L01b L02b L03b L05b L06b L07b L09b L10b L11b L12c L13c L18b L19b L20b L21c L22c L26b L27b L28b L29b</p> <p>【飛翔体観測機器】 (28)</p> <p>W01c W02b W03b W04b W13b W14b W15b W18b W20b W21b W22b W23c W25b W26b W27b W28b W29b W30b W31c W33b W34b W35b W36b W37b W38b W39b W40b W41b</p>	<p>〈会場 P 2 - 3〉</p> <p>【教育】 (14)</p> <p>Y06b Y07b Y08b Y09b Y10b Y11b Y12b Y13b Y14b Y15b Y16c Y17c Y18c Y19c</p> <p>【ジュニアセッション】 (28)</p> <p>【PDL】</p> <p>【最新情報コーナー】</p>

A. ガンマ線バースト

3月22日(月) 午前・B会場		
10:00	A01a ガンマ線バーストの観測の現状と展望 河合誠之 (東京工業大学)	A13c GRB030328 のプロンプト輻射と 早期残光 吉田篤正 (青山学院大学)
10:23	A02a ガンマ線バーストの理論研究の現状 と展望 戸谷友則 (京都大学)	A14c HETE-2 衛星搭載広視野 X 線モニ ター (WXM) 応答関数の机上較正 山崎 徹 (青山学院大学)
10:46	A03a HETE-2 衛星の現状報告 — 2003 年秋から現在まで 玉川 徹 (理化学研究所)	A15c 小口径望遠鏡によるガンマ線バース ト残光の即時観測 山岡 均 (九州大学)
10:56	A04a HETE-2 衛星による、X 線フラッ シュ、X-ray rich GRB の観測 坂本貴紀 (東京工業大学)	A16c 木曾観測所における GRB 追観測 浦田裕次 (理化学研究所 / 東工大理)
11:19	A05a The origin of the X-ray flash and the X-ray rich GRB 山崎 了 (京都大学)	A17c TOTO (Television Observation of Transient Objects) によるガン マ線バーストの光学閃光探査 大西浩次 (長野高専)
11:42	A06b HETE-2 衛星による GRB021211 および GRB030115 の観測 鈴木素子 (東京工業大学)	
3月22日(月) 午後・B会場		
11:46	A07b HETE-2 衛星による GRB020813 の観測 佐藤理江 (東京工業大学)	14:00 A18a ガンマ線バースト地上観測レ ビュー、及び、すばる望遠鏡による 最新の成果 小杉城治 (国立天文台)
11:50	A08b An averaged spectral property of the individual internal shocks 米徳大輔 (金沢大学)	14:23 A19a ガンマ線バースト観測衛星 Swift の 開発の現状と観測計画 田代 信 (埼玉大学)
11:54	A09a GRB 030329 の光学閃光探査 大西浩次 (長野高専)	14:46 A20a ガンマ線バーストの母天体としての 初代天体 梅田秀之 (東京大学)
12:04	A10a 岡山天体物理観測所における GRB の可視近赤外自動撮像観測システム 柳澤顕史 (国立天文台)	15:09 A21b ぐんま、美星天文台での GRB030329 の早期可視光測光、 分光観測 衣笠健三 (ぐんま天文台)
12:14	A11b 広視野望遠鏡を用いたガンマ線バース ト発生前後の可視光観測 白井文彦 (宇宙航空研究開発機構)	15:13 A22b GRB030329 の早期赤外多色測光 観測と SED 西原英治 (ぐんま天文台)
12:18	A12b Optical follow-up observation at Lulin observatory, Taiwan 黄 癸雲 (台湾 国立中央大学 / 理化学研究所)	

H. 高密度天体

15:17	A23b 野辺山ミリ波干渉計による GRB030329 の観測：階段状ミリ波光度曲線と母銀河の分子ガス 河野孝太郎 (東京大学)	3月23日(火) 午前・G会場	09:00	H01a ブラックホール自身が円盤であった。～光でなくとも脱出できる～ 間瀬博文
15:21	A24a ガンマ線バースト、極超新星の相対論的ジェットのシミュレーション 富永 望 (東京大学)	09:12	H02a 磁気流体円盤の準周期的振動：磁気タワージェットの影響 加藤成晃 (千葉大学/京都大学)	
15:30	A25a General Relativistic MHD Simulations of Collapsars 水野陽介 (京都大学)	09:24	H03a 降着円盤からブラックホールへ向かって準周期的に伝播する衝撃波と QPO への応用 青木成一郎 (東京大学)	
15:39	A26a ハイパーノバの光度曲線 岩本弘一 (日本大学)	09:36	H04a ワープで変形している相対論的円盤での振動と円盤との共鳴と kHz QPOs 加藤正二 (奈良産業大学)	
15:48	A27a 重力レンズ・ガンマ線バーストによる第一世代星の検出法 広瀬意育 (筑波大学)	09:48	H05a 「臨界」降着円盤 福江 純 (大阪教育大学)	
15:57	A28a 高赤方偏移ガンマ線バーストのサブミリ・赤外放射：原子・分子吸収線で探る初期世代の星形成領域 井上 進 (Max-Planck-Institut für Astrophysik)	10:00	H06a 輻射流体シミュレーションによる超臨界降着流の構造と光子捕獲 大須賀 健 (京都大学)	
	A29c 超高赤方偏移ガンマ線バーストアフターグロウの近赤外線観測と宇宙再電離史 井上昭雄 (京都大学)	10:12	H07a 超臨界降着流のスペクトルはどこから見てもハードか？ 渡会兼也 (京都大学)	
		10:24	H08a BH 降着円盤の 3 次元 MHD 数値実験：放射冷却の効果と状態遷移 町田真美 (国立天文台)	
		10:36	H09a 高光度ブラックホール天体におけるバルクコンプトン効果 Wang, Jian-Min (京都大学)	
		10:48	H10b 光り輝くリングがブラックホールに落下するときの光度曲線 川田明寛 (大阪教育大学)	
		10:48	H11b RXTE 衛星を用いた XTE J1859+226 の X 線スペクトル解析 鶴澤政美 (青山学院大学)	
		10:48	H12b GRS 1915+105 の X 線スペクトル解析と時間変動のエネルギー依存性 大川洋平 (立教大学)	

11:00	H13b 銀河面サーベイ観測で発見された Ultraviolet Transient X-Ray Source 山内茂雄 (岩手大学)	13:54	H24b かに星雲の新しい描像に向かって II 中村雄史 (山形大学)
11:00	H14b Chandra、XMM-Newton 衛星による ULX の X 線スペクトル解析 角田奈緒子 (東京理科大学 / 理化学研究所)	13:54	H25b ガンマ線衛星 INTEGRAL による銀河面パルサーの撮像分光観測 岡田 祐 (東京大学)
11:00	H15b 連星ブラックホールによる 3C 380 ジェットの周期運動について 平松由紀子 (東京大学)	14:06	H26a Be/X 線連星系における降着円盤の非軸対称構造 早崎公威 (北海道大学)
11:12	H16a 中性子星におけるサイクロトロン線構造への磁場変化の影響 西村 治 (長野高専)	14:18	H27a 低質量連星系 SLX1744-299/300 と G359.23-0.82 の XMM-Newton 衛星による X 線分光観測 森 英之 (宇宙航空研究開発機構)
11:24	H17b 磁気回転不安定の非線形飽和機構の解明 II. 飽和値予測関数 佐野孝好 (大阪大学)	14:30	H28a LMXB の中性子星におけるバースト振動と r-モード 李 うみん (東北大学)
11:24	H18b 中性子星振動における重力場摂動の効果 鷹野重之 (東京大学)	14:42	H29a 回転星の中性子星への重力崩壊過程及びそれに伴う重力波の計算 関口雄一郎 (東京大学)
	H19c ブラックホール X 線連星 V4641 Sgr の 2003 年アウトバースト 植村 誠 (京都大学)	14:54	H30a 宇宙再電離時期のハイパーノバ赤外フラッシュ観測可能性 林野友紀 (東北大学)
	H20c ブラックホール候補星のハード状態におけるエネルギースペクトルの折れ曲がり (II) 山岡和貴 (青山学院大学)	15:06	H31b 楯座新星 V475 Sct の多色測光および分光観測 田辺健茲 (岡山理科大学)
3 月 23 日 (火) 午後・G 会場			
13:30	H21a γ 線パルサーの 2 次元 Outer-Gap モデル (3) 高田順平 (山形大学)	15:06	H32b SU UMa 型矮新星 VW CrB のアウトバースト中の測光観測 野上大作 (京都大学)
13:42	H22a パルサー陽子逆流モデルにおけるプラズマ運動論 浅野勝晃 (大阪大学)	15:06	H33b 特異 SU UMa 型矮新星 SDSS J013701-091235 の superoutburst 今田 明 (京都大学)
13:54	H23b 電子・陽電子ペア生成を考慮したパルサー磁気圏の粒子シミュレーション 和田智秀 (山形大学)	15:18	H34b Ia 型超新星の多色データを用いた距離決定法 高梨直紘 (東京大学)
		15:18	H35b 大質量星 Fe-core 内部爆発による r-process 西村 直 (九州大学)
		15:18	H36b 超新星爆発の断熱崩壊モデルと状態方程式 川越至桜 (東京理科大学)

3月24日(水) 午前・G会場		3月24日(水) 午後・G会場	
09:00	H37a 高速回転コンパクト天体と超新星起源ガンマ線バースト 安武伸俊 (九州大学)	13:00	H47a Properties of Hypernova SN 2003dh/GRB030329 Jinsong Deng (University of Tokyo)
09:12	H38a Propagation and Transmission of Alfvén Waves in Rotating Magnetars 沖田太志 (広島大学)	13:12	H48a 超新星 r 過程における核分裂の効果 和南城伸也 (上智大学)
09:24	H39a 重力崩壊型超新星爆発によって生じる定在衝撃波の安定性 山崎達哉 (京都大学)	13:24	H49a 超新星残骸 1987A からのチタン 44 核 γ 線の観測可能性 望月優子 (理化学研究所)
09:36	H40a 磁場、回転を伴う重力崩壊型超新星爆発 澤井秀朋 (早稲田大学)	13:36	H50a Ic 型超新星を起源とする宇宙線の輸送と軽元素合成 中村 航 (東京大学)
09:48	H41a 磁軸と回転軸が傾いた鉄コアの重力崩壊型超新星爆発 佐藤裕司 (名古屋大学/千葉大学)	13:48	H51a Ia 型超新星の伴星を発見する方法とその可能性 尾崎 仁 (東京大学)
10:00	H42a ニュートリノ輸送流体計算による超新星爆発と核物理 住吉光介 (沼津工業高等専門学校)	14:00	H52a Wavelet-Based Method for detecting G.W from Supernovae 端山和夫 (東京大学/国立天文台)
10:12	H43a 空間・時間 2 次精度の Roe 法を用いた重力崩壊型超新星爆発の 2 次元数値シミュレーション 間所秀樹 (理化学研究所)	14:12	H53a 渦巻銀河における超新星の分布 内藤博之 (九州大学)
10:24	H44a Ia 型超新星 SN2002ic の光度曲線の理論モデル 鈴木知治 (東京大学)	14:24	H54a ヘリウム新星 V445 Pup の光度曲線解析 加藤万里子 (慶応大学)
10:36	H45a 爆発後 1000 日以上における “Hypernova” SN1998bw の光度曲線 森本達也 (日本大学)	14:36	H55a 古典新星 V1494 Aql の光度曲線解析：渦状衝撃波は見たか？ 蜂巢 泉 (東京大学)
10:48	H46a 非球対称な超新星爆発の二次元光度曲線計算：極超新星 1998bw、2002ap との比較 前田啓一 (東京大学)	14:48	H56a 矮新星 WZ Sge の 2001 年の爆発の解釈 尾崎洋二 (長崎大学)

K. 天体力学

L. 太陽系

3月22日(月) 午前・H会場		3月22日(月) 午前・H会場	
10:00	K01a 記号力学による直線三体問題 齋藤正也 (総研大/国立天文台)	11:00	L01b 流星電波観測国際プロジェクトによる流星群活動モニター 小川 宏 (筑波大学)
10:12	K02a 摂動関数の時間平均の計算 林 弘文	11:00	L02b 世界の流星電波観測が捕らえた2000年～2003年しし座流星群 小川 宏 (筑波大学)
10:24	K03a 多様体補正による効率的な軌道シミュレーション 福島登志夫 (国立天文台)	11:00	L03b ビームアンテナを使用したHRO流星電波観測による「しし座流星群」の流量モニター (2001年から2003年) 大西浩次 (長野高専)
10:36	K04b 分割多段法によるオイラーの自転運動方程式の線形化 山本一登 (総合研究大学院大学)	11:12	L04a アマチュア無線波を利用した6方位流星電波観測 山本真行 (高知工科大学)
10:36	K05b シャピロ時間遅れに対する高次の相対論的效果 荒木田英禎 (国立天文台)	11:24	L05b 2003年ふたご座流星群における眼視・ビデオ観測と6方位電波観測データの比較 堀内洋孝 (高知工科大学)
10:36	K06b 55 Cancri 惑星系の臨界指数と近星点連動 中井 宏 (国立天文台)	11:24	L06b 前方散乱方式を用いた流星電波観測におけるエコー強度の測定 中島 拓 (日本流星研究会)
10:48	K07b 火星探査機「のぞみ」の軌道決定-打ち上げからの全履歴- 吉川 真 (宇宙航空研究開発機構)	11:24	L07b 28MHzの電波を用いた流星電波観測 白居隆志 (流星電波観測国際プロジェクト)
		11:36	L08a 多周波電波観測による流星群の質量別空間分布 宮尾佳世 (東北大学)
		11:48	L09b 流星観測のためのビデオ画像解析システムの開発 廿日出 勇 (宮崎大学)
		11:48	L10b ふたご座流星群による流星痕の観測方法と、2003年の成果 比嘉義裕 (日本流星研究会)
		11:48	L11b 2003年におけるしし座流星群の活動 菅谷多都子 (東京学芸大学)

	L12c 月面衝突発光の衝突速度依存性 柳澤正久 (電気通信大学)	15:00	L23a 月の起源 —本当に巨大衝突で形成されたのか?— 和田桂一 (国立天文台)
	L13c WIZARD による対日照の観測 白井文彦 (宇宙航空研究開発機構)	15:12	L24a 2003 年の火星: 2つの共同観測の 総括的報告 中串孝志 (京都大学)
3月22日(月) 午後・H会場			
14:00	L14a 2002年しし座流星ダストの金属 元素アバダンス 春日敏測 (総合研究大学院大学)	15:24	L25a 高速不変線込み法における源泉関数 の3次式近似の効果 川端 潔 (東京理科大学)
14:12	L15a 近赤外線分光観測による C/2002 T7 彗星における氷粒子の検出 大坪貴文 (国立天文台)	15:36	L26b 土星の衛星タイタンによる恒星の掩 蔽とセントラルフラッシュの観測 長田哲也 (名古屋大学)
14:24	L16a エンケ彗星の中間赤外線観測 渡部潤一 (国立天文台)	15:36	L27b 岡山天体物理観測所における金星下 層大気の地上観測 佐川英夫 (東京大学)
14:36	L17a 特異小惑星から彗星になった C/2002 CE10 の中間赤外線域での 熱観測 関口朋彦 (国立天文台)	15:36	L28b 近赤外波長域における金星 O ₂ 夜間 大気光の地上観測 大月祥子 (東京大学)
14:48	L18b 西はりま天文台彗星スペクトルセン ター構想 森 淳 (西はりま天文台)	15:48	L29b 金星のスーパーローティションを説 明する。 間瀬博文
14:48	L19b 2002 CE10 (LINEAR) 彗星のラ イトカーブ観測 宮坂正大 (東京都庁)		
14:48	L20b すばる望遠鏡による微小小惑星の自 転周期測定 佐藤祐介 (東京大学)		
	L21c 小惑星 (832) Karin の測光観測 澤邊 優 (福岡教育大学)		
	L22c 小惑星インテラムニアとウルスラの 自転と立体形状 佐藤 勲 (中野星の会)		

M. 太陽

3月23日(火) 午前・E会場	
09:00	M01a Solar Magnetic Activity Research Telescope (SMART) 搭載磁場望遠鏡による太陽全面ベクトル磁場マップとその精度の検定 上野 悟 (京都大学)
09:12	M02a Moving magnetic features と黒点半暗部外端構造との関係 久保雅仁 (東京大学)
09:24	M03a CallK 線スペクトルによるコロナ X 線輝点下の彩層診断 II. 渡邊鉄哉 (国立天文台)
09:36	M04a Hida/DST and SOHO/CDS observations of blinkers in the EUV and H alpha. Brooks, D. H. (京都大学)
09:48	M05a SXT と TRACE におけるナノフレアの見え方の違いについて 阪本康史 (東京大学)
10:00	M06a コロナ輝線放射領域の 2 成分モデル 桜井 隆 (国立天文台)
10:12	M07a Complex Nature of the Line Width Variations with Height of Coronal Emission Lines Jadjev Singh (国立天文台)
10:24	M08a 高温、低温コロナと光球磁場の関係 勝川行雄 (東京大学)
10:36	M09a 光球から上層大気への質量とエネルギーの供給機構 柴崎清登 (国立天文台)
10:48	M10b 静的加熱と放射冷却を考慮した太陽浮上磁場の MHD シミュレーション 高橋邦生 (茨城大学)
10:48	M11b 非対称リコネクションにおける Alfvén wave の発生 木暮宏光 (京都大学)
10:48	M12b 磁気流体波によるコロナ加熱と太陽風加速 鈴木 建 (京都大学)
11:00	M13b 南北両半球の活動領域をつなぐ大規模磁気ループシステムの形成 : NOAA8210 と NOAA8214 の場合 横山正樹 (名古屋大学)
11:00	M14b Study on a surge on Aug 30, 2001 Liu Yu (Kyoto University)
11:00	M15b Evolution of Magnetic Fields Associated with Five Solar Flares in Active Region 0375 山崎百合子 (ニュージャージー工科大学)
11:12	M16b Solar Neutron Events in Association with Large Solar Flares on November 2003 渡邊恭子 (名古屋大学)
11:12	M17b RHESSI 衛星による太陽フレアの硬 X 線撮像スペクトル解析 三谷夏子 (東京大学)
11:12	M18b 太陽フレアプラズマ放出現象に伴う硬 X 線源 増田 智 (名古屋大学)
11:24	M19b 静穏領域における太陽コロナの温度診断について 桑原譲二 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)
	M20c 光球における磁気リコネクション (電気抵抗の温度依存および輻射緩和を考慮した場合) 竹内彰継 (米子高専)

3月23日(火) 午後・E会場		3月24日(水) 午前・E会場	
13:30	M21a 強誘電体液晶ポラリメーターの開発とフレアのH α 偏光観測 花岡庸一郎(国立天文台)	09:00	M31a 磁気シートにおける磁気浮力不安定の3次元MHDシミュレーション 野澤 恵(茨城大学)
13:42	M22a RHESSI衛星で見たフレア初相における硬X線放射源 宮腰 純(東京理科大学)	09:12	M32a 浮上磁場の磁気リコネクションの3次元MHD数値シミュレーションI. 磁気シートの場合 磯部洋明(京都大学)
13:54	M23a フレアの硬X線フットポイントでみる放射領域の性質と加速電子のスペクトル 佐藤 淳(名古屋大学)	09:24	M33a 浮上磁場の磁気リコネクションの3次元MHD数値シミュレーションII. 捻れ磁束管の場合 宮腰剛広(京都大学)
14:06	M24a 硬X線フレアの統計解析～「坂尾タイプ」フレアの検証と硬X線放射のパラメータ依存性について～ 簗島 敬(東京大学)	09:36	M34a Discovery of Super Long X-ray Filaments 岡本文典(京都大学)
14:18	M25a 太陽フレアにおける磁気ループ根元からのガンマ線放射 古徳純一 (東京大学/理化学研究所)	09:48	M35a モートン波とEIT波が伝播したコロナ磁場構造の解析 成影典之(京都大学)
14:30	M26a Particle Acceleration in Steady and Nonsteady Reconnections 高崎宏之(京都大学)	10:00	M36a CME発生とEIT dimmingおよび軟X線コロナループとの関連 並木優子(茨城大学)
14:42	M27a フレアの基礎物理II: PetschekのSlow Shockは無さそう 平山 淳(明星大学)	10:12	M37a Modeling of Enhancement in Low-Energy Range of a Proton Flux II Associated With Coronal Mass Ejection-Driven Shock Waves 田 光江(通信総合研究所)
14:54	M28a フレアでトリガされた多重コロナループの振動 堀 久仁子(通信総合研究所)	10:24	M38a 3次元適合格子法による惑星間空間衝撃波伝播シミュレーション 小川智也(通信総合研究所)
15:06	M29a ヘリウム1083nmラインによる太陽フレアの観測 川上新吾(大阪市立科学館)	10:36	M39a 電磁サイクロトロン波動による重イオンの強い加速 水田孝信(東京大学)
15:18	M30a フレアのimpulsive phaseにおける速度場の時間変化 神尾 精(京都大学)	10:48	M40a 相対論的粒子線による太陽加速領域の推定 大木健一郎(国立天文台)

N. 恒星

3月24日(水) 午後・E会場	3月22日(月) 午前・E会場
13:00 M41a Active Region Evolution of a Flare-productive Sunspot Group (NOAA 10486, 2003 Oct.) 石井貴子 (京都大学)	10:00 N01a 高速自転星アルタイルの表面輝度分布の非対称性 II 大石奈緒子 (国立天文台)
13:12 M42a Magnetic Configuration and Non-potentiality of NOAA AR 10486 Dun Jinping (京都大学)	10:12 N02a リカッチ法による恒星の線型断熱振動の計算 高田将郎 (東京大学)
13:24 M43a 活動領域 NOAA 10486 にみられる彩層予熱現象 齊藤祥行 (京都大学)	10:24 N03a 食連星の反射効果-とりわけ多重反射について- 中村泰久 (福島大学)
13:36 M44a 2003年10月のXクラスフレアと磁気ヘリシティ入射 山本哲也 (東京大学 / 国立天文台)	10:36 N04a B型輝線星周円盤の non-LTE モデル構築 岩松英俊 (京都大学)
13:48 M45a 2001年4月10日のフレアにおける、磁気ヘリシティ入射率の解析 浅井 歩 (京都大学)	10:48 N05b Wolf-Rayet 星の 0.9-2.4 μm スペクトルアトラス 西巻祐一郎 (東京大学)
14:00 M46a 磁気ヘリシティ対消滅モデルに基づくシグモイド形成とフレア発生に関するシミュレーション研究 草野完也 (広島大学)	10:48 N06b 炭素星の 0.9-2.4 μm スペクトルアトラス Ahmatjan Letip (東京大学)
	10:48 N07b 惑星を持つ K 型巨星 4 個の化学組成解析 定金晃三 (大阪教育大学)
	N08c 岡山 HIDES を用いた F、G、K 型星の高分散スペクトルデータベース 竹田洋一 (国立天文台)
	11:00 N09a X線星 IKT1 からのパルス変動をするソフト成分の発見 植野 優 (京都大学)
	11:12 N10a 偏光分光観測に基づいた共生星の連星質量の推定 磯貝瑞希 (東京大学)
	11:24 N11b WR104=V5107 Sgr の変光の CCD 観測 清田誠一郎 (VSOLJ)

11:24	N12b Chandra 衛星を用いた Massive Wolf-Rayet Binary WR140 における恒星風の組成解析 伊藤邦夫 (中央大学)	3月22日(月)午後・E会場	14:00	N22a 金属欠乏星の亜鉛及び銅組成 (I) : 亜鉛組成の予備的結果 齋藤雄二 (東海大学)
11:24	N13b XMM-Newton 衛星による 2003 年 η Carinae X 線極小期の観測 濱口健二 (NASA/GSFC)	14:12	N23a OAO HIDES による金属欠乏星の組成解析 (V) : 酸素組成の予備解析 比田井昌英 (東海大学)	
11:36	N14b Chandra 衛星を用いた早期型星の X 線放射機構の研究 II 山本則正 (立教大学)	14:24	N24a 超低金属星 CS29498-043 の化学組成と II 型超新星による元素合成 青木和光 (国立天文台)	
11:36	N15b Be/X 線連星からの可視光放射の時間変動 岡崎敦男 (北海学園大工)	14:36	N25a 超金属欠乏星 HE0107-5240 の連星系進化のシナリオ 須田拓馬 (北海道大学)	
	N16c 近接連星系における星風による角運動量輸送問題 岡 和孝 (神戸大学)	14:48	N26a 低金属量星における中性子捕獲反応 西村高德 (北海道大学)	
	N17c 新しい Herbig Be 星 MisV1147 の発見とその特異な変光 植村 誠 (京都大学)	15:00	N27a 大質量金属欠乏星における s 過程元素合成 岩本信之 (東京大学)	
11:36	N18b 金属量過剰な星 HR7373 の化学組成解析 大久保美智子 (京都大学)	15:12	N28a 歴史的な星表における等級の季節・高度による変動 藤原智子 (京都産業大学)	
11:48	N19b 面分光による惑星状星雲 NGC7027 の 2 次元分光診断 河合篤史 (京都大学)	15:24	N29a 近赤外線 K_s バンドにおける赤色巨星分枝チップの距離指標 松永典之 (東京大学)	
11:48	N20b 高分散分光偏光による VY CMa の観測 松田健太郎 (東北大学)	15:36	N30a HD161796 の周囲での結晶化シリケイト分布 宮田隆志 (東京大学)	
	N21c 原始惑星状星雲天体 IRAS19134+2131 に付随する水メーザーの VLBA 観測 今井 裕 (鹿児島大学)	15:48	N31a 褐色矮星の大気構造とその観測特性 XII. Unified Cloudy Model による L 型及び T 型矮星の物理量の決定について 辻 隆 (東京大学)	

P. 星・惑星形成

3月23日(火) 午前・A会場		10:24	P12b 超コンパクト HII 領域 G33.92+0.11 の Ne ⁺ ガスの運動： 過去の降着活動の影響 岡本美子 (北里大学)
09:00	P01a 野辺山ミリ波干渉計を用いたオリオン KL 領域における熱的 SiO 輝線の 高分解能観測 高橋智子 (茨城大学)	10:36	P13b 原始星の進化における外部トリガー の役割 本山一隆 (茨城大学)
09:12	P02a ASTE による IRAS 点源を伴わない 分子流天体の発見 米倉覚則 (大阪府立大学)	10:36	P14b ボック・グロビュールの密度構造と 力学的安定性 神鳥 亮 (総合研究大学院大学)
09:24	P03a 大質量星形成領域における高密度コ アの物理状態と進化の解明 齋藤弘雄 (国立天文台)	10:36	P15b NRO45m/BEARS による星団形成 領域 S255-2 の ¹³ CO, C ¹⁸ O 観測 河村晶子 (宇宙航空研究開発機構)
09:36	P04a Deep near-infrared observations of high mass Galactic star forming regions: W3 Main and NGC 7538. Devendra Ojha (NAOJ)	10:48	P16b ASTE によるカメレオン座領域 CTTS & Herbig Ae 星の観測 平松正顕 (東京大学)
09:48	P05a 星形成領域 NGC 2024 からの広 がった X 線放射の検出 江副祐一郎 (東京大学)	10:48	P17b 原始星エンベロープ内での原始惑星 系円盤形成 横川創造 (神戸大学)
10:00	P06a 電離・解離領域の伝播と誘発的星形成 細川隆史 (京都大学)	10:48	P18b 連星周りのガス円盤の長時間進化 - 永年摂動法を使った解析解 - 今枝佑輔 (神戸大学)
10:12	P07b Chandra Orion Ultra-deep Proj- ect (1) : 原始星からの中性鉄輝線 放射の探査 辻本匡弘 (ペンシルバニア州立大学)	11:00	P19b コンドリュールサイズ分布から推測 される原始太陽系星雲内部のダスト サイズ分布 三浦 均 (筑波大学)
10:12	P08b R CrA 分子雲コア深くに埋もれた Class0 原始星候補天体の X 線増光 の発見 濱口健二 (NASA/GSFC)	11:00	P20b 高速気流中の液滴内部の固体コアの 運動 加藤貴昭 (筑波大学)
10:12	P09b Newton-XMM 衛星による OMC2/3 領域の長期的 X 線観測と 個々の天体の特性 鬼形 愛 (中央大学)	11:00	P21b ダスト成長にともなうミリ波放射の 減衰 竹内 拓 (神戸大学)
10:24	P10b 近赤外線による巨大分子雲 Vela C における class I 天体の探査 馬場大介 (名古屋大学)	11:12	P22b 雲を考慮した太陽系外地球型惑星の 赤外放射スペクトル 大朝由美子 (神戸大学)
10:24	P11b いくつかのじゅう座星形成領域におけ る近赤外での変光観測 日下部展彦 (東京学芸大学)		P23c MOA グループのデータによるトラ ンジット法による系外惑星の探索 古田善工 (名古屋大学)

3月23日(火) 午後・A会場		3月24日(水) 午前・A会場	
13:30	P24a すばる望遠鏡と CIAO を用いた原始惑星系円盤の撮像サーベイ II 田村元秀 (国立天文台)	09:00	P34a すばる IRCS/AO による、南の冠座星形成分子雲コア内の原始星の観測 根建 航 (東京大学/国立天文台)
13:42	P25a T タウリ型星周囲に検出した伴星候補天体の近赤外分光観測 伊藤洋一 (神戸大学)	09:12	P35a M17 領域のシルエットエンベロープ天体の赤外線観測 酒向重行 (東京大学)
13:54	P26a Adaptive Optics Spectroscopy with High Angular Resolutions toward Outflows Emanating from Young Stellar Objects Tae-Soo Pyo (国立天文台)	09:24	P36a デブリ円盤ダストの組成観測 ~ Fe を含む結晶質シリケートか? 本田充彦 (東京大学)
14:06	P27a オリオン・シルエット原始惑星系円盤の近赤外線分光観測 寺田 宏 (国立天文台)	09:36	P37a コンドリュール形成時の衝突破壊率とそれから推定されるダスト/ガス比 中本泰史 (筑波大学)
14:18	P28a 原始惑星系円盤からの水素分子輝線 野村英子 (UMIST)	09:48	P38a ダスト成長による原始惑星系円盤の温度分布と SED の進化 田中秀和 (東京工業大学)
14:30	P29a 星なしコアの分子組成分布: 重力/圧力依存性とコアの分類 相川祐理 (神戸大学)	10:00	P39a 原始惑星系円盤との重力相互作用を考慮した原始惑星形成 小南淳子 (東京工業大学)
14:42	P30a 磁気拡散により誘発される星形成: 超音速乱流の役割 中村文隆 (新潟大学)	10:12	P40a 原始惑星系円盤中の巨大ガス惑星・周惑星系円盤の観測可能性 谷川享行 (台湾中央研究院)
14:54	P31a 原始星の磁束と角運動量 町田正博 (千葉大学)	10:24	P41a すばる/HDS による系外惑星 HD209458b の精密分光観測 成田憲保 (東京大学)
15:06	P32a 輻射冷却を伴う重力収縮の自己相似解 村上匡且 (大阪大学)		
15:18	P33a おうし座分子雲中の原始星の性質 2: 星周構造の進化と Class 0 天体の物理的意味 中里 剛 (国立天文台)		

Q. 星間現象

3月23日(火) 午前・B会場		09:36	Q13b 渦状銀河における磁場増幅・維持機構の大局的3次元磁気流体数値実験 錦織弘充(千葉大学)
09:00	Q01b ortho-D ₃ O ⁺ J,K = 1,0 ⁻ - 0,0 ⁺ (799 GHz) の実験室測定 古屋 岳(福井大学)	09:36	Q14b 電子-陽電子プラズマ中の Weibel 不安定性による磁場の生成と進化 加藤恒彦(国立天文台)
09:00	Q02b ρ Oph 領域における中性炭素原子の広域分布とその起源 亀谷和久(東京大学)		Q15c 輻射流体力学におけるゆらぎの解析 II Gap Mode 兼古 昇(北海道大学)
09:00	Q03b [C] 輝線による M16 分子雲の構造 永井 誠(東京大学)		Q16c 「なんてん」による ¹² CO(J=1-0) 銀河面分子雲サーベイ 大西利和(名古屋大学)
	Q04c 遠赤外線気球望遠鏡(FIRBE)を用いた Carina 領域の観測 桜井正昭(名古屋大学)	09:48	Q17a 「なんてん」銀河面サーベイによる巨大分子雲の分布 金井陽子(名古屋大学)
09:12	Q05b Digitized Sky Survey I に基づく暗黒星雲カタログ及びアトラスの作成 上原 隼(桐朋中学・高等学校)	10:00	Q18a 「なんてん」による第3象限の CO 観測 2 山岡健太郎(名古屋大学)
09:12	Q06b 散開星団の高精度偏光分光観測 菊地厚人(東北大学)	10:12	Q19a 銀河系外縁部(R>14 kpc)の低温分子雲 中川真規(名古屋大学)
09:12	Q07b 銀河中心領域における近赤外3バンドでの色超過と減光量との関係 西山正吾(名古屋大学)	10:24	Q20a すばる望遠鏡+IRCS/AOによる、星間 CO/H ₂ 比の直接測定 白田知史(国立天文台)
09:24	Q08b ゲル化法によるアルミナコア-シリケートマントル粒子の形成と結晶化 平家 勉(名古屋大学)	10:36	Q21a Digitized Sky Survey を利用した暗黒星雲カタログ・アトラスの作成 土橋一仁(東京学芸大学)
09:24	Q09b オリオン巨大分子雲の ISF 上のガス/ダスト比 有村成功(宇宙航空研究開発機構)	10:48	Q22a 可搬型 18cm サブミリ波望遠鏡による Cl ³ P ₁ - ³ P ₀ 輝線銀河面サーベイ (I) 岡 朋治(東京大学)
09:24	Q10b Compact Hydrocarbon Dust Emitting Region in IRAS04296+3429 Resolved by Spectroscopy with Adaptive Optics System 後藤美和(国立天文台/ハワイ大学)	11:00	Q23a IRTS/FIRP による銀河面サブミリ波拡散放射光の観測(2) 平尾孝憲(名古屋大学)
	Q11c 惑星状星雲 NGC7027 における近赤外未同定輝線の空間分布 奥村真一郎(宇宙航空研究開発機構)	11:12	Q24a Intermediate Velocity Cloud の高解像度 ¹² CO J=1-0 輝線観測 阪本成一(国立天文台)
09:36	Q12b Long-term Evolution of Supernova Remnants in Magnetized ISM 花山秀和(東京大学)		

3月23日(火) 午後・B会場		09:36	Q38a	ASTEによる南天の超新星残骸のサブミリ波観測 立松健一(国立天文台)
13:30	Q25a			マイクロ波プラズマによる珪酸塩微粒子の凝縮実験 平家 勉(名古屋大学)
13:42	Q26a	09:48	Q39a	宇宙初期の星間衝撃波によるダストの破壊 I 野沢貴也(北海道大学)
				カーボン-シリコン系からのナノダイヤモンドの生成 木村勇氣(立命館大学)
13:54	Q27a	10:00	Q40a	X線天文衛星 XMM-Newton による非熱的 SNR 候補天体 G32.45+0.1 及び G38.55+0.0 の観測 山口弘悦(京都大学)
				炭素質物質(QCC)合成実験から求めた C-D のピーク 和田節子(電気通信大学)
14:06	Q28a	10:12	Q41a	X線天文衛星 Chandra による歴史的超新星残骸の詳細観測(II):非熱的フィラメント構造の進化 馬場 彩(京都大学)
				未同定赤外バンドのプロファイルが示唆する星間ダストの物理的性質 左近 樹(東京大学)
14:18	Q29a	10:24	Q42a	Chandra による銀河中心領域での非熱的 X 線 knot の観測 千田篤史(京都大学)
				近傍分子雲における赤化則:近赤外測光観測 直井隆浩(東京大学)
14:30	Q30a	10:36	Q43a	銀河系中心領域の X 線フィラメントの長時間変動 伊藤 啓(宇宙航空研究開発機構)
				水素原子逐次付加反応による H ₂ CO 及び CH ₃ OH 生成 日高 宏(北海道大学)
14:42	Q31a	3月24日(水) 午後・B会場		
		13:00	Q44a	Cl(³ P ₁ - ³ P ₀)輝線による暗黒星雲 B18 のマッピング観測 久保井信行(東京大学)
				星間塵表面における CH ₃ OH の重水素濃縮機構 長岡明宏(北海道大学)
14:54	Q32a	13:12	Q45a	カメレオン座分子雲コアのサブミリ波観測 早川貴敬(東京大学)
				Subaru/COMICS による銀河系中心の中間赤外高空間分解能観測 岡田陽子(東京大学)
15:06	Q33a	13:24	Q46a	磁気乱流の減衰による乱流スペクトルの時間変化 杉本香菜子(名古屋大学/千葉大学)
				ISO/LWS による銀河系中心領域の遠赤外分光解析 安田晃子(お茶の水女子大学/宇宙航空研究開発機構)
15:18	Q34a	13:36	Q47a	星団形成時の環境が反映する散開星団の離散について 釜谷秀幸(京都大学)
				IC1396 領域の Bright Rimmed Globule における中性炭素原子の分布 田中邦彦(東京大学)
3月24日(水) 午前・B会場		13:48	Q48a	球状星団に付随する広がった X 線放射の検出 岡田 祐(東京大学)
09:00	Q35a	14:00	Q49a	dlrrs における静穏期の SFR から探る ISM の物理状態 小林正和(京都大学)
				XMM-Newton による白鳥座ループ北東シェル領域の観測 並木雅章(大阪大学)
09:12	Q36a	14:12	Q50a	銀河間ダストの性質とその観測可能性 山田健吉(東邦大学)
				ニュートン衛星によるベラ超新星残骸の破片 D の観測(II)~高温プラズマと星間雲との衝突~ 勝田 哲(大阪大学)
09:24	Q37a			銀河面サーベイデータを用いた SNR-分子雲相互作用の系統的研究(2) 森口義明(名古屋大学)

R. 銀河

3月22日(月)午後・C会場		15:12	R11b 多重像を持つクェーサーの色の違い：吸収か？マイクロレンズ効果か？ 米原厚憲（筑波大学）
14:00	R01a ASTRO-Fによる北黄極領域の銀河ディープサーベイ計画：概要と現状 松原英雄（宇宙航空研究開発機構）	15:24	R12b SDSSデータを用いた銀河の性質とその環境依存性：2種類の銀河進化 田中賢幸（東京大学）
14:12	R02a ASTRO-F北黄極ディープサーベイ領域の地上プレサーベイ 和田武彦（宇宙航空研究開発機構）	15:24	R13b Passive spiral galaxiesの近赤外での性質 山内千里（名古屋大学）
14:24	R03b ASTRO-F北黄極ディープサーベイ観測シミュレーション：I. 近中間赤外カメラによる撮像 今井弘二（総合研究大学院大学）	15:24	R14b SDSS 1044-0125 fieldのlow-z emission line galaxies 塩谷泰広（東北大学）
14:24	R04b ASTRO-F北黄極ディープサーベイ観測シミュレーション：II 指向観測サーベイの具体的方法 伊原千晶（東京大学）		R15c 近傍楕円銀河の年齢・金属量勾配 山田善彦（東京大学/国立天文台）
14:24	R05b すばるXMMディープフィールドにおけるz=3-6の大規模構造探査 大内正己（東京大学）	15:36	R16b VERAプロジェクト：銀河系中心領域 小山友明（東京大学）
14:36	R06a Subaru/XMM-Newton Deep Survey (SXDS) 関口和寛（国立天文台）	15:36	R17b W3OH水メーザを用いたVERAのマッピング性能の評価II 亀谷 収（国立天文台）
14:48	R07a すばるXMMディープサーベイ：X線源の可視分光観測の結果 秋山正幸（国立天文台）	15:36	R18b VERA単一鏡によるW49N領域の水メーザ一源の時間変動観測 Yoon Kyung Choi（東京大学）
15:00	R08a Subaru XMM/Newton Deep Survey領域にみる銀河形成のダウン・サイジング 児玉忠恭（国立天文台）	15:48	R19b VERAによるW51Mの観測II 官谷幸利（国立天文台）
15:12	R09b 赤外高光度銀河IRAS17137-1017における星形成史と水素分子輝線放射源 沖田容史子（京都大学）	15:48	R20b 渦巻銀河におけるガスの2次元軌道と質量分布 中西裕之（東京大学）
15:12	R10b Optical Identification of a bright SCUBA source in a massive cluster RX J1347.5-1145 田中 壺（東北大学）	15:48	R21b ^{12}CO and ^{13}CO observations toward the GMA in the Disk of the Andromeda Galaxy 濤崎智佳（ぐんま天文台）
		16:00	R22b NMAを用いたM83中心部のCO(1-0)輝線による多視野モザイク観測 村岡和幸（東京大学）

	R23c 銀河系の天体による近傍銀河内の天体の位置天文学的マイクロレンズ効果 大西浩次 (長野高専)	10:12	R34a 原始銀河における多重超新星と重元素混合過程 森 正夫 (専修大学)
	R24c MOA データベースにおけるパララックスマイクロレンズイベントの探索 倉田康雄 (名古屋大学)	10:24	R35a 銀河系初期の進化から探る二つの r 過程の起源 石丸友里 (お茶の水女子大学)
	R25c トーラス構築法による銀河系力学構造の決定 (その1) 上田晴彦 (秋田大学)	10:36	R36a 銀河形成モデルの構築 (II)—OB 型星からの紫外線による星間ガスの加熱およびその紫外線とダストとの相互作用 伊吹山秋彦 (東京大学/国立天文台)
3月23日 (火) 午前・C会場			
09:00	R26a フィラメント状原始ガス雲の収縮過程からの水素分子輝線 水澤広美 (新潟大学)	11:00	R38a 赤方偏移 7.1 のライマン α 銀河狭帯域パイロットサーベイ 太田一陽 (東京大学)
09:12	R27a Double Reionization は可能か? 廣居久美子 (筑波大学)	11:12	R39a SSA22 $z=3.1$ Ly α 輝線天体高密度領域の三次元構造 松田有一 (国立天文台/東北大学)
09:24	R28a 原始銀河中の HII 領域の進化 北山 哲 (東邦大学)	11:24	R40b 中間帯域フィルターによる $z \approx 5.8$ のライマン α 輝線天体探査 安食 優 (東北大学)
09:36	R29a 早期再電離と CDM サブストラクチャー問題 須佐 元 (立教大学)	11:24	R41b Spectroscopy of Galaxies at $z=3$ in the Hubble Deep Field - South 井上昭雄 (京都大学)
09:48	R30a VLT によるライマンブレイク銀河の電離光子漏洩率への制限 井上昭雄 (京都大学)	11:24	R42b Dust Emission Model for Lyman-Break Galaxies 竹内 努 (国立天文台)
10:00	R31b 原初ガスクランプでの分子アバundance進化に対するダストの影響 南野公彦 (京都大学)		
10:00	R32b 宇宙再電離過程における第一世代天体による光電離の寄与 竹尾洋介 (筑波大学)		
10:00	R33b 銀河の電離光子漏洩率評価処方 井上昭雄 (京都大学)		

3月23日(火) 午後・C会場		3月24日(水) 午前・C会場	
13:30	R43a クエーサー中心質量、光度、Fe II/ Mg II の関係 続 唯美彦 (東京大学)	09:00	R53a Deep Supernova Search and Cosmic Star Formation History 織田岳志 (京都大学)
13:42	R44a 赤外線高分散観測による高赤方偏移 クエーサー吸収線系の研究 (II) B1422+231 小林尚人 (東京大学)	09:12	R54a 銀河進化・星形成史と超新星ニュー トリノ 安藤真一郎 (東京大学)
13:54	R45a 矮小銀河における巨大ブラックホー ル形成 川勝 望 (筑波大学)	09:24	R55a SDSS 銀河2点相関関数—形態/光 度依存性とバイアスの進化 加用一者 (東京大学)
14:06	R46a Bar Dissolution Induced by Mas sive Central Black Holes 穂積俊輔 (滋賀大学)	09:36	R56a 近傍銀河のH α 光度関数とその形態 依存性 中村 理 (ノッティンガム大学)
14:18	R47a Gravitational Radiation from Super massive Black Hole Coalescence 榎 基宏 (国立天文台)	09:48	R57a 大光度赤外線銀河H α イメージン グサーベイ 服部 堯 (国立天文台)
14:30	R48a Chandra 衛星を用いたスターバー スト現象と活動銀河核の関係の研究 平家憲 (愛媛大学)	10:00	R58a Dust emission in low metallicity environment 木内 学 (京都大学)
14:42	R49a NGC 2146 における広がったX線 放射の解析 乾 達也 (京都大学)	10:12	R59a GRAPE-6A クラスターの開発と並列 ツリーコードの実装 福重俊幸 (東京大学)
14:54	R50a Chandra 衛星によるM33中心領 域のディフューズX線放射の観測 高橋弘充 (東京大学)	10:24	R60a GRAPE-6AX: PCI-X用GRAPEイ ンターフェースの開発 台坂 博 (国立天文台)
15:06	R51a Statistics of Hierarchical Merg ing Haloes and Galaxies 花見仁史 (岩手大学)	10:36	R61a Angular momentum distribution of dwarf galaxies Chan Szeting (東京大学)
15:18	R52a IRSF マゼラン雲近赤外カタログの 概要 加藤大輔 (名古屋大学)	10:48	R62a 階層的構造形成宇宙における球状星 団形成 斎藤貴之 (北海道大学)
		11:00	R63a 球状星団系の力学進化: 星団形成へ の制限と親銀河の質量決定 坂本 強 (総合研究大学院大学)
			R64c 近傍銀河の大質量星団及び星団系の 統計的研究 隈井泰樹 (熊本学園大学)

S. 活動銀河核

3月24日(水) 午後・C会場		3月22日(月) 午前・F会場	
13:00	R65a GRAPE5による ω Centauri 起源となる矮小銀河の動力学的進化 水谷有宏 (総合研究大学院大学)	10:00	S01a A Census of Intrinsic Narrow Absorption Lines at $z \sim 3.0$ 三澤 透 (ペンシルベニア州立大学)
13:12	R66a A capture scenario for the globular cluster ω Centauri 土屋俊夫 (日本 SGI 株式会社)	10:12	S02a 高赤方偏移クエーサーサーベイ 濱田吉博 (東京大学)
13:24	R67a 潮汐場における球状星団の崩壊 谷川 衝 (東京大学)	10:24	S03a MAGNUM プロジェクト (1) Mrk 744 の可視・赤外モニター結果と変光遅延 越田進太郎 (東京大学)
13:36	R68a The Effect of Rotation on the Dynamical Evolution of Stellar Clusters Eliani Ardi (京都大学)	10:36	S04a MAGNUM プロジェクト (2) RXJ2138.2 + 0112 の可視赤外交光遅延 富田浩行 (東京大学)
13:48	R69a 銀河渦状ポテンシャル中における渦状衝撃波不安定性の磁気流体数値実験 田中 実 (千葉大学)	10:48	S05a MAGNUM プロジェクト (3) セイファート銀河核のダストトーラス内縁半径と BLR 半径の関係 菅沼正洋 (東京大学)
14:00	R70a 渦巻銀河におけるパターン速度決定法 江草実 (東京大学)	11:00	S06b MAGNUM プロジェクト (4) NGC 4051 3年間の可視 - 近赤外線変動 菅沼正洋 (東京大学)
14:12	R71a 中心 HII 領域を持つ早期型円盤銀河の CO 観測: 重力的に安定なガス円盤 幸田 仁 (Caltech/ 国立天文台)	11:00	S07b Subaru Deep Field (SDF) に存在する変光天体とその性質 諸隈智貴 (東京大学)
14:24	R72a メーザー源の視線速度から求められる我々の銀河中心核の質量について 出口修至 (国立天文台)	11:00	S08b 3rd EGRET 1958+2909 近傍の銀河面電波源モニター観測 新沼浩太郎 (早稲田大学)
14:36	R73a VERA の現状と今後の観測計画 小林秀行 (国立天文台)		S09c 高銀緯未同定ガンマ線天体の電波観測 市川 創 (早稲田大学)
14:48	R74a 系外銀河 NGC 253 におけるアンモニアの分布 高野秀路 (国立天文台)	11:12	S10b 高エネルギーガンマ線天体の VSOP による観測 中川亜紀治 (鹿児島大学)
		11:12	S11b NGC 1052 の分子トーラスによるメーザー増幅モデル 羽馬有紗 (東京大学)

11:12	S12b	水メーザー円盤と銀河円盤の回転軸の差 山内 彩 (九州大学)	3月22日(月) 午後・F会場
11:24	S13b	XMM-Newton 衛星による電波銀河 Fornax A の東ローブの観測 磯部直樹 (宇宙航空研究開発機構)	14:00 S20a 我銀河系中心部における複数の超巨大ブラックホールの存在確認 (その2) 大家 寛 (福井工業大学)
11:24	S14b	GPS 電波源の多周波 VLBI サーベイ II -キューサーと電波銀河の違い- 亀野誠二 (国立天文台)	14:12 S21a 銀河系中心 1pc 以内の一酸化珪素メーザー源の位置と固有運動計測 小山友明 (東京大学)
11:24	S15b	Current-driven Instabilities of Poynting flux-dominated Jets 中村雅徳 (Jet Propulsion Laboratory)	14:24 S22a VSOP-2 によるブラックホール影の観測イメージ 高橋 勇太 (京都大学)
11:36	S16b	Long Term Simulations For Poynting Jets And Accretion Disks Ibrahim Ahamed Ahmed (京都大学)	14:36 S23a ブラックホールの回転エネルギー引き抜きとジェット形成 高橋真聡 (愛知教育大学)
11:36	S17b	Energy and Momentum transfer rate in Relativistic Thermal Plasmas 岩本静男 (京都大学)	14:48 S24a Seyfert 1 型銀河からの広がった鉄輝線の理解の現状と Astro-E2 衛星による観測の展望 寺島雄一 (宇宙航空研究開発機構)
11:36	S18b	降着円盤中心のブラックホール影とブラックホールのスピン 高橋 勇太 (京都大学)	15:00 S25a Seyfert 1 型銀河における連続成分の再評価と広がった鉄輝線の解釈の妥当性 野上杏子 (日本大学)
11:48	S19b	ブラックホールの軌道運動に伴う電波ジェットの強度変動を用いたバイナリーブラックホール探査 須藤広志 (岐阜大学)	15:12 S26a 狭輝線 Seyfert 1 型銀河に於ける降着流の観測的研究 幅 良統 (宇宙航空研究開発機構)
			15:24 S27a セイファート銀河の統一理論の修正 中井直正 (国立天文台)
			15:36 S28a 爆発的星形成活動による Obscuring Clouds の形成 渡部靖之 (筑波大学)

T. 銀河団

3月22日(月) 午前・A会場		11:00	T12a 近傍宇宙におけるダークバリオン分布とその観測可能性 吉川耕司(東京大学)
10:00	T01b N体計算による原始銀河団領域の研究 諏訪多聞(北海道大学)	11:12	T13a おとめ座銀河団に付随した Warm-hot 銀河間物質の O VIII 吸収線の観測 竹井 洋(宇宙航空研究開発機構)
10:00	T02b かみのけ座銀河団の矮小銀河：分光分類に基づく測光的性質の研究 小宮山 裕(国立天文台)	11:24	T14a Chandra 衛星による Spiral-only group HCG80 の観測 森田うめ代(東京都立大学)
10:00	T03b Panoramic Imaging and Spectroscopy of Cluster Evolution with Subaru (PISCES) 児玉忠恭(国立天文台)	11:36	T15a 3CR184 を含む遠方銀河団の Chandra による高解像度 X 線観測 三原建弘(理化学研究所)
10:12	T04a RXJ0152.7-1357 銀河団 ($z=0.83$) の大規模構造と銀河の測光特性 田中賢幸(東京大学)	11:48	T16a ASCA 衛星で観測された銀河団 2A 0335+096 の力学的構造 田中 武(名古屋大学)
10:24	T05a 弱い重力レンズ解析による RXJ0152.7-1357 銀河団領域の質量分布 梅津敬一(台湾中央研究院)	3月22日(月) 午後・A会場	
10:36	T06b ミリ波電波カメラによる SZ 効果観測 2 坪井昌人(茨城大学/国立天文台)	14:00	T17a XMM-Newton 衛星による Centaurus 銀河団の観測 III 高橋 勲(東京大学)
10:36	T07b 銀河団内でのサブストラクチャーの運動による乱流の発生 滝沢元和(山形大学)	14:12	T18a 太陽コロナとの類推にもとづく銀河団プラズマ低温成分の解釈 牧島一夫(東京大学)
10:36	T08b 銀河団電波ハローと X 線温度の相関 岡部信広(東北大学)	14:24	T19a 巨大ブラックホールで Cooling Flow は加熱できるか？ 藤田 裕(国立天文台)
	T09c X 線源を含む遠方銀河団の力学的構造の解明 上野信介(名古屋大学)	14:36	T20a 銀河団プラズマの熱伝導度直接測定法の提案 服部 誠(東北大学)
	T10c XMM-Newton による A3558 の観測 二村 卓(名古屋大学)	14:48	T21a 銀河団におけるコールドフロント形成の磁気流体数値実験 浅井直樹(千葉大学)
10:48	T11a DIOS で探る宇宙の大構造とダークバリオン 須藤 靖(東京大学)		

U. 宇宙論

3月22日(月) 午前・D会場		11:48	U12b 時間反転音響学と Olbers のパラ ドックス 宮田真理子 (神戸大学)
10:00	U01a 宇宙膨張論の検証 (そのII: 宇宙背 景放射を“宇宙の晴れ上がり”の残 照とした時の問題点) 阿武靖彦		U13c ガンマ線バーストを用いた初期宇宙 の星生成率 井澤寿予 (金沢大学)
10:12	U02a Observational Constraints on Cosmology from Modified Fried- mann Equation Zhu, Zong-Hong (国立天文台)	3月22日(月) 午後・D会場	
10:24	U03a コンパクト電波源をサンプルとする ジェット統計の可能性について 岡島礼奈 (東京大学)	14:00	U14a Quasi-geometrical Optics Ap- proximation in Gravitational Lensing 高橋龍一 (京都大学)
10:36	U04a Loh & Spillar test による宇宙論パ ラメータの決定法に関する理論的考 察 田坂 守 (東京大学)	14:12	U15a 多重重力レンズ効果の連続極限と optical scalar 方程式 吉田 宏 (福島県立医科大学)
10:48	U05a WMAP による Decaying Cold Dark Matter への制限 市来浄與 (東京大学)	14:24	U16a Detecting Sub-Lunar Mass Compact Objects toward M33 - Cold Dark Matter or Kuiper Belt Objects? - 井上太郎 (国立天文台)
11:00	U06a 最終散乱時における磁場が宇宙背景 放射に与える影響 山崎 大 (東京大学)	14:36	U17a The SDSS Gravitationally Lensed Quasar Survey I. Lensing by Gal- axy 稲田直久 (東京大学)
11:12	U07a 原始銀河の形成シミュレーション 吉田直紀 (国立天文台)	14:48	U18a The SDSS Gravitationally Lensed Quasar Survey II. Lensing by Cluster 大栗真宗 (東京大学)
11:24	U08a SDSS クエーサー 2点相関関数の赤 方偏移・光度依存性 矢幡和浩 (東京大学)	15:00	U19a すばる /FOCAS による Cosmic String 2 重像候補天体の分光観測 山内良亮 (東北大学)
11:36	U09b 減衰宇宙項を持った宇宙モデルでの 大規模構造形成シミュレーション 小宮 全 (東京理科大学)		
11:36	U10b すばる望遠鏡による遠方超新星の発 見: 観測のまとめ 安田直樹 (東京大学)		
11:36	U11b 詳細つりあいの原理を考慮したビッ グバン元素合成 長倉隆徳 (東京大学)		

V. 地上観測機器

3月23日(火) 午前・F会場		
09:00	V01a JVOの研究開発(国際連携と全体進捗) 大石雅寿(国立天文台)	10:12 V12b カートリッジ型受信機のALMAプロトタイプ12m鏡への搭載報告 木村公洋(大阪府立大学)
09:12	V02a JVOの研究開発(プロトタイプ2の実装) 田中昌宏(国立天文台)	10:12 V13b ALMA Band8 EM 受信機の性能評価 鳥羽弘之(東京大学)
	V03c JVOの研究開発(プロトタイプ2のデモンストレーション) 本田敏志(国立天文台)	10:12 V14b ALMA 受信機カートリッジのアウトガスレートの測定 飯塚吉三(国立天文台)
09:24	V04b JVOの研究開発(コスミックストリング探査への応用) 白崎裕治(国立天文台)	10:24 V15b ALMA 受信機カートリッジのたわみ測定 神庭利彰(国立天文台)
09:24	V05b 仮想天文台を目指した電波・近赤外線パイプライン・プロトタイプの開発 立松健一(国立天文台)	10:24 V16b ALMA BAND8 Qualification Model の設計 佐藤直久(国立天文台)
09:24	V06b 北海道大学11m電波望遠鏡の22GHz化:総合試験 徂徠和夫(北海道大学)	10:24 V17b サブミリ波用ワイヤグリッドの試作-2004- 河合利秀(名古屋大学)
09:36	V07b Atacama Compact Arrayにおけるイメージング性能の評価II 堤 貴弘(国立天文台)	V18c ALMA型受信機高性能サブミリ波ホーンの設計 松永真由美(愛媛大学)
09:36	V08b ALMAプロト12m鏡鏡面測定と電波ホログラフィ法高精度化 齋藤正雄(国立天文台)	10:36 V19b VERAアンテナフィードーム膜の電気特性試験結果について 空 佳澄(鹿児島大学)
09:36	V09b ALMA12mプロトタイプアンテナ光学ポインティングシステム 池之上文吾(国立天文台)	10:36 V20b 南半球サブミリ波VLBI・検討と第0次サイトサーベイ 三好 真(国立天文台)
09:48	V10a ALMAバンド4受信機開発の進捗状況 小川英夫(大阪府立大学)	V21c K5、インターネット接続によるVLBI観測システムの完成と発展 中島潤一(通信総合研究所)
10:00	V11a ミリ波帯導波管型サイドバンドセパレーティングSISミキサの開発 浅山信一郎(大阪府立大学)	10:36 V22b 分散型VLBIソフトウェア相関処理システムの開発 竹内 央(通信総合研究所)
		V23c 超小型VLBI電波望遠鏡CARAVANの開発(2) 久保木裕充(通信総合研究所)

V. 地上観測機器

	V24c 山口 32 m電波望遠鏡のネットワーク観測 藤沢健太 (山口大学)	11:12	V35b 野辺山 45m 電波望遠鏡の 100 GHz 帯での偏波特性 坪井昌人 (茨城大学 / 国立天文台)
	V25c 山口 32 m電波望遠鏡用 S バンドアンテナの製作 田村さやか (山口大学)		V36c 6 ビーム SIS 受信機の改良と高感度化：広帯域フィルターバンク化 春日 隆 (法政大学)
10:48	V26b NANTEN2 計画：主鏡面調整機構の開発 林 暁子 (名古屋大学)	11:12	V37b ASTE 搭載連続波観測用冷却システムの開発 大淵喜之 (国立天文台)
10:48	V27b NANTEN2 計画：超伝導受信器の開発 竹内友岳 (名古屋大学)	11:24	V38b 200GHz 帯 2SB 受信機を用いた 60cm 電波望遠鏡のマルチライン同時観測 中島 拓 (大阪府立大学)
10:48	V28b NANTEN2 計画：フロントエンド部の開発 南谷哲宏 (名古屋大学)	11:24	V39b NMA を用いた 183GHz 差動ラジオメータ位相補償法の基礎実験 III：2002 年度の結果 百瀬宗武 (茨城大学)
11:00	V29b 那須 8 素子干渉計における高感度合成 Beam Switching 方式の開発 田村陽一 (早稲田大学)	11:24	V40b Multi-Fourier Transform Interferometer— MuFT—の基礎開発 大田 泉 (東北大学)
11:00	V30b 1.4GHz 那須電波干渉計による EGRET 未同定天体の観測 国吉雅也 (早稲田大学)	11:36	V41b 電波天文学用広帯域 IF90 度ハイブリッドの開発 安藤浩哉 (豊田工業高等専門学校)
	V31c 那須 8 素子球面鏡の個々の駆動オフセットの測定 大久保理基 (早稲田大学)		
11:00	V32b 早稲田 64 素子によるトランジェント電波源サーベイとデータ解析 松村寛夫 (早稲田大学)	3月23日 (火) 午後・F 会場	
		13:30	V42a TAMA300 の現状 (13) 佐藤修一 (国立天文台)
11:12	V33b パルサータイミング観測用 GPS 時刻信号システムの開発 岳藤一宏 (早稲田大学)	13:42	V43a SMART 望遠鏡の開発進捗報告 永田伸一 (京都大学)
	V34c ナイキストレートサンプル HDD Array の開発とパルサー観測システムについて 吉村直也 (早稲田大学)	13:54	V44b SMART 望遠鏡搭載大フォーマット高速読みだし CCD カメラの開発 II 神尾 精 (京都大学)

	V45c NOGIS システム改修によるコロナ絶対強度補正係数の再計算 木挽俊彦 (国立天文台)	14:42	V57a 中間赤外線高分散分光観測装置 IRHS : 2次元アレイ Si:AsIBC 検出器の性能評価 町田貴志 (名古屋大学)
	V46c 磁場観測用偏光変調子としての強誘電性液晶 篠田一也 (国立天文台)	14:54	V58a 中間赤外線高分散分光観測装置 IRHS : 撮像用 InSb 2次元アレイ検出器の性能評価 岡 知路 (名古屋大学)
	V47c PC を用いた tip-tilt 補償装置の開発 佐久間慎之介 (北見工業大学)	15:06	V59b 近赤外線多天体分光撮像装置の開発 V : 機能試験観測報告 鈴木竜二 (東北大学)
13:54	V48b TAO 望遠鏡建設のためのアタカマ調査 5 : シーイング 2 点同時測定 本原顕太郎 (東京大学)	15:06	V60b すばるレーザーガイド星補償光学系プロジェクト 高見英樹 (国立天文台)
13:54	V49b シーイングモニタ (DIMM) の校正 浦口史寛 (国立天文台)	15:06	V61b すばる LGSAO 用、高出力レーザとレーザ伝送用光ファイバーの開発 早野 裕 (国立天文台)
14:06	V50b 広波長域撮像分光観測装置 (TRISPEC) の改修と性能評価 木野 勝 (名古屋大学)		V62c FMOS (すばる望遠鏡主焦点多天体分光器) の開発 XII : 制御系 衛藤 茂 (京都大学)
14:06	V51b 広視野グリズム分光撮像装置 (WFGS2) の開発 上原麻里子 (名古屋大学)		V63c FMOS (すばる望遠鏡主焦点多天体分光器) の開発 XIII : 分光器用大型光学素子の製作 木村仁彦 (京都大学)
14:06	V52b 輝線星のバルマー逓減率測光サーベイシステムの構築 大島 修 (岡山県立鴨方高等学校)	15:18	V64b 広島大学 1.5m 望遠鏡計画とシーイング調査 川端弘治 (広島大学)
14:18	V53b 新技術望遠鏡架台の開発経過とこれから 栗田光樹夫 (名古屋大学)		V65c 1.8m 望遠鏡を用いた光学観測システムの構築と観測目標 岡島和裕 (名古屋大学)
14:18	V54b 可搬型 WFCT (広視野冷却望遠鏡) 専用赤道儀の開発 森島邦博 (名古屋大学)		V66c 汎用 CCD 読み出し回路の開発 関口知弘 (名古屋大学)
14:18	V55b 30m 基線三鷹光赤外干渉計 MIRA-I.2 の性能評価観測 西川 淳 (国立天文台)		
14:30	V56a 中間赤外線高分散分光観測装置 IRHS : 開発状況 所 仁志 (名古屋大学)		

V. 地上観測機器

3月24日(水) 午前・F会場		3月24日(水) 午後・F会場	
09:00	V67a すばる主鏡探傷用傷音モニターシステムの開発 家 正則 (国立天文台)	13:00	V77a VERA 観測装置の現状 川口則幸 (国立天文台)
09:12	V68a 干渉法による鏡形状測定装置の開発 佐藤修二 (名古屋大学)	13:12	V78a VERA によるクエーサー 3C345 と NRAO512 の位相補償 VLBI 観測 (II) 榊原誠一郎 (鹿児島大学)
09:24	V69a 西はりま天文台 2 m 望遠鏡 3 波長同時観測近赤外線カメラの開発 上水和典 (西はりま天文台)	13:24	V79a 汎用 PC による 2Gbps-VLBI システム ~アプリケーション開発~ 木村守孝 (通信総合研究所)
09:36	V70a 新しい VPH グリズムおよび櫛形格子のグリズム 海老塚 昇 (理化学研究所)	13:36	V80a ASTE プロジェクトの現状: 初期観測運用の成功 河野孝太郎 (東京大学)
09:48	V71a UK シュミット望遠鏡用広視野 CCD カメラにおけるドリフトスキャン観測 大藪進喜 (東京大学)	13:48	V81a ALMA-ACA 用 FX 関連器の開発 I. 基本設計 奥村幸子 (国立天文台)
10:00	V72a 東海大学 40 cm 光学望遠鏡の性能評価 白鳥 裕 (九州東海大学)	14:00	V82a ALMA 受信機対応 4 - 8GHz アイソレータ内蔵冷却低雑音増幅器 原 淳 (日本通信機株式会社)
10:12	V73a 那須パルサー観測所 30 m 球面鏡の光学系・駆動系 大師堂経明 (早稲田大学)	14:12	V83a Nb 拡散冷却型 HEB ミクサの開発 新保 謙 (東京大学)
10:24	V74a NANTEN2 計画: 駆動系の更新 伊藤晋吾 (名古屋大学)	14:24	V84a NbTiN 薄膜を用いた HEB ミクサの開発 佐藤高之 (東京大学)
10:36	V75a ペルー 32 m アンテナ計画の進行状況 Ishitsuka I. Jose K. (国立天文台)	14:36	V85a THz 帯高感度ミクサの開発 前澤裕之 (国立天文台)
10:48	V76a Photogrammetry 法による ALMA12m アンテナ主反射鏡部精度評価 石田貴行 (三菱電機株式会社)		

W. 飛翔体観測機器

3月23日(火) 午前・D会場		10:36	W12a ASTRO-F 焦点面観測装置に対する プロトンビーム照射試験 金田英宏 (宇宙航空研究開発機構)
	W01c 超小型衛星による JASMINE の技術 実証実験計画 (Nano-JASMINE 計 画) 郷田直輝 (国立天文台)	10:48	W13b ASTRO-F 衛星用 Ge:Ga 遠赤外線 アレイ検出器の放射線特性 鈴木仁研 (宇宙航空研究開発機構)
09:00	W02b 近赤外線アストロメトリー衛星 (JASMINE) のシステムについて 矢野太平 (国立天文台)	10:48	W14b ASTRO-F/IRC 近赤外線チャンネル NIR の波長感度特性 金 宇征 (東京大学)
09:00	W03b JASMINE シミュレーターの開発 IV 山田良透 (京都大学)	10:48	W15b SPICA 望遠鏡その他のための軽量 材料鏡面の微視的特性 塩谷圭吾 (宇宙航空研究開発機構)
09:00	W04b Golomb データ圧縮と天文データ 上田誠治 (総合研究大学院大学)	11:00	W16a PLANET-C/VCO 塔載 赤外線検出 器の開発 上野宗孝 (東京大学)
09:12	W05a 日印共同気球実験による遠赤外線ス ペクトル線広域マッピング観測 中川貴雄 (ISAS/JAXA)	11:12	W17a PLANET-C/VCO 塔載 PtSi ショッ トキバリア型赤外線検出器の放射線 耐性評価実験 三原ふみ子 (東京大学)
09:24	W06a 気球搭載型遠赤外干涉計 (FITE) 計 画 吉戸智明 (名古屋大学)	11:24	W18b JTPF のための軸外し「広視野」望 遠鏡の光学設計 長嶋千恵 (国立天文台)
09:36	W07a 冷却赤外線望遠鏡用 CFRP 鏡の開 発 II 尾中 敬 (東京大学)		
09:48	W08a GaAs 半導体を用いた高感度遠赤外 線検出器の開発 渡辺健太郎 (東京大学)	3月23日(火) 午後・D会場	
10:00	W09a ASTRO-F/IRC による中間赤外線全 天サーベイ (続々) 石原大助 (東京大学)	13:30	W19a VSOP-2 計画の提案 平林 久 (宇宙航空研究開発機構)
10:12	W10a ASTRO-F 搭載遠赤外線サーベイ ヤー FIS の分光モードの性能評価 小沢啓太 (名古屋大学)	13:42	W20b VSOP-2 計画用の衛星システム設計 II 村田泰宏 (宇宙航空研究開発機構)
10:24	W11a ASTRO-F/FIS 搭載 Ge:Ga 遠赤外 線アレイ検出器のイメージング性能 白旗麻衣 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)	13:42	W21b VSOP-2 位相補償観測システム 朝木義晴 (宇宙航空研究開発機構)
		13:42	W22b 共振回路膜の斜め入射特性 氏原秀樹 (国立天文台)

	W23c VSOP-2 の広帯域データ伝送システム 輪島清昭 (国立天文台)	14:42	W34b 全天 X 線監視装置 (MAXI) 搭載ガススリットカメラ用コリメータの特性測定 磯部直樹 (宇宙航空研究開発機構)
13:54	W24a 衛星に対するガス状コンタミネーション評価装置の開発 伊藤信成 (宇宙航空研究開発機構)	14:42	W35b 全天 X 線監視装置 (MAXI) の地上データ処理システムの開発 小浜光洋 (理化学研究所)
14:06	W25b Solar-B 衛星搭載超高精度太陽センサーの性能検証 久保雅仁 (東京大学)	14:54	W36b DIOS 衛星計画 大橋隆哉 (東京都立大学)
14:06	W26b 超高角度分解能 X 線望遠鏡の開発—主鏡と閉ループ制御— 北本俊二 (立教大学)	14:54	W37b DIOS 衛星計画 XSA (X-ray Spectrometer Array) 検出器の開発 石崎欣尚 (東京都立大学)
14:06	W27b 超高精度 X 線用望遠鏡の開発 ~ CCD カメラの研究 III ~ 金井淳一 (立教大学)	14:54	W38b DIOS 衛星搭載用 4 回反射型 X 線望遠鏡 FXT の開発 田原 譲 (名古屋大学)
14:18	W28b Astro-E2 用放射線環境モンテカルロシミュレータの枠組 尾崎正伸 (宇宙航空研究開発機構)	15:06	W39b Astro-E2 搭載 X 線 CCD カメラ (XIS) フライトモデルの機能試験 松本浩典 (京都大学)
14:18	W29b 硬 X 線、 γ 線観測気球・衛星実験のための宇宙線バックグラウンドモデル 水野恒史 (スタンフォード線形加速器センター)	15:06	W40b Astro E-2 に搭載する CCD カメラ (XIS) の可視光遮断フィルターの軟 X 線透過率とその経年変化の有無 千葉茂人 (立教大学)
14:18	W30b 小型ガンマ線バースト観測衛星「風鈴」の位置決定性能評価 山本佳久 (東京工業大学)	15:06	W41b Astro-E2 搭載 XIS の電荷注入機能を用いた較正方法の開発 中嶋 大 (京都大学)
	W31c ^{44}Ti 原子核からの輝線の観測を目指した多層膜の製作 岡田俊策 (宇宙航空研究開発機構)	15:18	W42a 大面積 X 線望遠鏡用非球面基板の開発 I 栗木久光 (愛媛大学)
14:30	W32a 全天 X 線監視装置 (MAXI) 搭載用 CCD カメラのエンジニアリングモデルの性能 片山晴善 (宇宙航空研究開発機構)		
14:42	W33b 全天 X 線監視装置 (MAXI) 搭載 ガススリットカメラ (GSC) の較正実験 桜井郁也 (理化学研究所)		

3月24日(水) 午前・D会場		3月24日(水) 午後・D会場	
09:00	W43a 多重薄板型 X 線望遠鏡の結像性能の現状と NeXT への展望 井上裕彦 (宇宙航空研究開発機構)	13:00	W53a Astro-E2 衛星搭載硬 X 線検出器 (HXD-II) の放射化バックグラウンドの評価 村島未生 (東京大学)
09:12	W44a 高角分解能多重薄板積層型 X 線望遠鏡の研究・開発 III 井上智暁 (東京都立大学)	13:12	W54a X 線 CCD 検出器の宇宙環境でのバックグラウンド：シミュレーションによる評価 狐塚正樹 (宇宙航空研究開発機構)
09:24	W45a 硬 X 線望遠鏡の開発 II：気球搭載望遠鏡の性能評価 高橋里佳 (名古屋大学)	13:24	W55a 次期 X 線天文衛星 NeXT 搭載用透過型 CCD の開発 高木慎一郎 (京都大学)
09:36	W46a 硬 X 線望遠鏡の開発 III：硬 X 線反射鏡の単体反射鏡光学特性評価 坂下希子 (名古屋大学)	13:36	W56a 宇宙 X 線観測を目指したマグネティックカロリメータの研究 佐藤浩介 (東京都立大学)
09:48	W47a ASTRO-E2 搭載 X 線望遠鏡の特性測定と高性能化への展望 内藤聖貴 (名古屋大学)	13:48	W57a 宇宙用アバランシェ・フォトダイオードの開発：衛星搭載と撮像への応用 五十川 知子 (東京工業大学)
10:00	W48a Astro-E2 搭載 X 線望遠鏡の性能評価と期待される性能 伊藤昭治 (宇宙航空研究開発機構)	14:00	W58a 硬 X 線撮像観測用位置感応型 NaI(Tl) シンチレーションカウンターの開発 野々山将之 (名古屋大学)
10:12	W49a Astro-E2 搭載用 X 線望遠鏡の反射鏡単体での光学特性 横山裕士 (宇宙航空研究開発機構)	14:12	W59a 天体硬 X 線偏光検出器 PoGO プロトタイプのビーム試験 水野恒史 (スタンフォード線形加速器センター)
10:24	W50a Astro-E2 衛星搭載カロリメータ検出器 XRS の地上較正実験 古庄多恵 (宇宙航空研究開発機構)	14:24	W60a 宇宙硬 X 線・ γ 線高感度観測のための高分解能 Si/CdTe 半導体を用いたコンプトンカメラの開発 三谷烈史 (宇宙航空研究開発機構)
10:36	W51a Astro-E2 衛星搭載用 X 線 CCD カメラ XIS の軟 X 線領域での較正 林田 清 (大阪大学)	14:36	W61a Caltech ASIC を用いた硬 X 線 CdTe 撮像検出器の開発 大貫宏祐 (宇宙航空研究開発機構)
10:48	W52a Astro-E2 搭載 X 線 CCD カメラ (XIS) 用較正線源の評価 (その 2) 市川喜徳 (総研大 / 宇宙航空研究開発機構)	14:48	W62a ガンマ線バースト観測衛星 Swift 搭載 BAT 検出器の数値モデルとエネルギー応答 鈴木雅也 (埼玉大理)

Y. 天文教育・その他

3月22日(月) 午前・C会場		11:12	Y11b la型超新星のFITSデータを用いた銀河の距離を求める教材の開発 原 正(埼玉県立豊岡高等学校)
10:00	Y01a 南米ペルーでのこの47年間 石塚 睦(ペルー地球物理研究所 Instituto Geofisico del Peru)	11:24	Y12b 水星日面通過における人工衛星と地上から視差と1天文単位の測定 大西浩次(長野高専)
10:12	Y02a 流星電波観測国際プロジェクトから みる社会参加型科学研究 小川 宏(筑波大学)	11:24	Y13b 野辺山観測所における不要電波発射 の調査 齋藤泰文(国立天文台)
10:24	Y03a インターネット天文台を利用した 継続観測による探求活動 松本直記(慶應義塾高校)	11:24	Y14b 天文学とプラネタリウム 平松正顕(東京大学)
10:36	Y04a 継続的な関心・意欲と自己学習力の 育成を目指した天文カリキュラム試案 縣 秀彦(国立天文台)	11:36	Y15b 多角的アプローチが進む天文教育・ 普及 -日本天文学会の役割につい ての再考- 縣 秀彦(国立天文台)
10:48	Y05a 火星観測週間/マーズウィークの活 動報告 時政典孝(西はりま天文台)		Y16c シーロスタットを用いた水平式空気 望遠鏡 荒井朋子(明星大学)
11:00	Y06b 火星観測週間/マーズウィークのW EB制作と公開 渡部義弥(大阪市立科学館)		Y17c Javaによる光学設計プログラム optikの復元 成相恭二(明星大学)
11:00	Y07b 世界で一番小さい電波望遠鏡(実験 教育用望遠鏡セット) 中島潤一(通信総合研究所)		Y18c DARTS(Data ARchive and Transfer System)in JAXA/ISAS 田村隆幸(宇宙航空研究開発機構)
11:00	Y08b 専修大学情報科学センターのパーソ ンを使ったグリッドコンピューティ ング 森 正夫(専修大学)		Y19c ガーナ・インターネット天文台によ る教育実践 佐藤毅彦(熊本大学)
11:12	Y09b セファイドの周期—光度関係より、 距離を求めるFITS画像教材 五島正光(巣鴨中学高校/東京学 芸大学大学院)		
11:12	Y10b SMOKAデータを利用した、ハッブ ル則教材 島 浩二 (岡山商科大学附属高等学校)		

第6回ジュニアセッション

主催：日本天文学会 共催：天文教育普及研究会
 後援：日本惑星協会、名古屋市科学館

3月22日 10:00～12:00 [座長：北原政子（名古屋市科学館）・澤 武文（愛知教育大学）]

◆セッション1 [火星]

- 01 火星の公転半径と公転周期.....<口頭>
 南木 翔（高3）【慶應義塾高等学校】
- 02 2003年の大接近における火星の極冠の大きさの変化.....<口頭・ポスター>
 高橋多聞、田端辰哉、石井貴大、市川裕樹、斉藤秀一郎（中3）、
 林 剛久、田中孝市、大澤 大（中1）【巣鴨中学校】
- 03 すばるの火星画像解析による「火星の温度分布測定」.....<口頭・ポスター>
 下嵯ゆり、渡邊みなみ、吉岡 賢、兒玉洋平、内堀拓哉、川手俊憲、小林智幸（高専2）、
 山田真広、増井香織（高専1）【長野工業高等専門学校】
- 04 すばるデータによる火星表面の温度分布と比熱.....<口頭・ポスター>
 大島悠揮、瀬川知行（高1）【岡山商科大学附属高等学校】

◆セッション2 [衛星・小惑星]

- 05 食現象について～ガリレオ衛星の相互食・R900の暗縁出現.....<口頭>
 【一宮高校 地学部】
- 06 すばる画像を用いたEKBOs探し.....<口頭・ポスター>
 村吉浩明、有林 翼、豊枝美由紀（高2）、大池達也、上村さおり、元栄聡菜、村上友喜那、
 森山茉美奈、福真寿美、末川美穂（高1）【鹿児島県立沖永良部高等学校 科学クラブ】
- 07 小惑星の実態調査.....<口頭・ポスター>
 梅畑豪紀（高2）【私立東大寺学園高校】、杉田知大（高2）【神奈川県立神奈川総合高校】、
 松澤 希（高3）【長野県立大町高校】、片岡香織（高3）【千葉県立船橋東高校】、
 和泉 究（卒）【長野県立木曽高校】、水野直樹（高3）【福島県立磐城桜が丘高校】、
 立部千晶（高2）【滋賀県立膳所高校】、樋口美樹（高1）【私立横浜雙葉高校】、
 西本知世（高2）【鹿児島県立鹿屋高校】
- 08 小惑星の起源について.....<口頭・ポスター>
 田上佳恵（高2）【千葉県立木更津高等学校】、田鍋理枝（高1）【千葉県立成田国際高等学校】、
 畠田優衣（高2）【山口県立下関西高等学校】、山本美和（高2）【滋賀県立膳所高等学校】

◆セッション3 [流星]

- 09 流星多点観測法による国際宇宙ステーションの経路同定の検証.....<口頭・ポスター>
 山田翔大（高2）【東京工業大学工学部附属工業高等学校】
- 10 HRO 日周変化のサイト毎のピーク時刻差.....<口頭・ポスター>
 中谷倫哉（高1）【上宮高等学校】
- 11 電波流星観測（HRO）から得たふたご座流星群の同時流星検出率.....<口頭・ポスター>
 石川拓也、金井規晃（高2）、井出和人、伊藤雅人、吉池智史（高1）【上田高校】、
 【長野高専】
- 12 HRO 流星レーダー観測領域の検証.....<口頭・ポスター>
 近藤裕介、鈴木祥平（高3）、落合 聡、家田博之、中 嵩文、竹内俊樹、井上拓也、
 吉原聡志（2年）、小笠原長博（高1）【西武台高等学校 天文部】
- 13 流星塵とHROからみた流星群の活動について～第二報～.....<口頭・ポスター>
 大越優希、高塩知世、坂東悠紀（高2）【遺愛女子高等学校 地学部】

3月22日 14:00～16:00 [座長：高村裕三朗（愛知県立一宮高等学校）・若松謙一（岐阜大学）]

◆セッション4 [月・水星・系外惑星]

- 14 月のクレーターの高さの求め方、及びその深さと直径の関係.....<口頭>
斎藤達也、佐藤 慧（高3）【慶應義塾高等学校】
- 15 水星の日面通過より1天文単位を求める.....<口頭>
谷口 剛（高3）【慶應義塾高等学校】
- 16 系外惑星探査に挑戦.....<口頭・ポスター>
増森治子、森本迪恵（高2）【成蹊高校 天文気象部】

◆セッション5 [太陽]

- 17 可視分光観測による太陽の自転速度の緯度分布.....<口頭・ポスター>
高津貴大（高2）【東京工業大学工学部附属工業高等学校】
- 18 高分散スペクトルを利用した太陽黒点磁場の見積もり.....<口頭・ポスター>
米坂聡一郎、畑中滋生、和田光雄（高2）【京都府立洛東高校】
- 19 高分散スペクトルを利用した太陽の微分回転の測定.....<口頭・ポスター>
釣石一志、小野打健史、岡崎 輝（高2）【京都府立洛東高校】
- 20 2003年8月19日に観測されたフレアカーネルのH α スペクトル.....<口頭・ポスター>
小田村 愁、本田遼平、津田和昌（高2）【京都府立洛東高校】
- 21 ハイブリッドエネルギーシステムに関する研究.....<口頭・ポスター>
岡本翔太（高3）【愛知県立春日井工業高等学校】

◆セッション6 [星・銀河・その他]

- 22 星の色と明るさから銀河系の大きさを測定する.....<口頭・ポスター>
池田昌広（高2）【木曾高等学校】、石原 舞（高1）【椋山女学園高等学校】、
植田準子（高1）【京都市立堀川高等学校】、大塚英水（高1）【岐阜県立加茂高等学校】、
佐藤真樹（高2）【富山県立魚津高等学校】、田上佳恵（高1）【千葉県立木更津高等学校】、
高山良平（高2）【長野西高等学校】、竹原陽平（高2）【木曾高等学校】、
中村沙絵（高2）【東京都立戸山高等学校】、本荘裕子（高2）【同志社香里高等学校】、
吉本信雄（高3）【東京都立東京電機大学高等学校】、米本 在（高3）【玉川学園高等部】、
若林恵里子（高1）【横浜雙葉中学・高校】
- 23 形状と回転速度の因果関係.....<口頭>
矢坂 悠（高3）【日本大学高等学校】、園田容子（高2）【神奈川県立相模原高校】、
片岡温子（高2）【私立鷗友学園女子高等学校】、加藤雅祥（高2）【私立三田学園高等学校】
- 24 銀河団を用いた宇宙年齢の測定.....<口頭・ポスター>
山根宏大（高2）【札幌東高校】、小森真里奈（高2）【江戸川学園取手高校】、
佐々木飛鳥（高3）【八戸工業大学附属第二高校】、鮫島朋義（高3）【桐蔭学園】、
寒川正敏（高2）【関西創価高校】、橋畑隆幸（高2）【八戸西高校】、福市有希子（高1）【横浜雙葉高校】、
久保田貴洋（高3）【桐陽高校】、佐藤優衣（高2）【盛岡第三高校】、堂園ゆかり（高2）【鹿屋高校】、
中島宏和、安原俊介（高3）【木曾高校】
- 25 口径30cm ニュートン式反射望遠鏡製作と空気望遠鏡の改良.....<口頭>
皆藤千明、石崎香里（高2）【茨城県立水戸第二高等学校】
- 26 Good Job 天文学を目指して PART1 –基礎の学びと天文普及–.....<口頭・ポスター>
阿部真理子（11年）【ウィルソンスクール】

ポスターのみ（ポスターは会期を通して掲示）

- 27 すばるの火星画像解析実習 <ポスター>
 代表：高津貴大（高2）【東京工業大学工学部附属工業高校 科学部】、
 【東京工業大学工学部附属工業高校 科学部】、【埼玉県立越谷北高校 天文気象部】、
 【埼玉県立桶川高校 地学部】、【巣鴨高校 地学班】、【慶應義塾校高校 地学部】、
 【東京大学教育学部附属中等教育学校 天文部】、【長野工業高等専門学校 天文部】、
 【岡山商科大学附属高校 自然科学部】
- 28 流星出現高度の質量・放射点高度依存性 <ポスター>
 土石直也（高2）、亀山信吾、川角佳嗣、木幡清人、長本裕樹、松林 誠（高1）
 【埼玉県立越谷北高等学校 天文気象部 流星班】
- 29 HRO による 2003 年ペルセウス座流星群 <ポスター>
 伊藤貴恵子（高2）、石田沙枝子、湯山麻央、山田菜穂（高1）【私立星野高等学校】
- 30 テオフィルスクレーターを作る <ポスター>
 赤平詩保子、佐々木香名、佐藤夏子、最上美貴、藤原瑞妃、須藤理江、上山智代、三上智也（高2）
 【青森南高等学校 自然科学部】
- 31 「水星の日面通過」の接触時刻の決定 <ポスター>
 【埼玉県立三郷工業技術高校 自然科学部】
- 32 太陽スピキュールの運動の研究 <ポスター>
 青木良枝、大島由也、木村 宗、角田俊一、松本 卓（高専1）【米子工業高等専門学校】
- 33 銀河団及び銀河の性質 <ポスター>
 山根宏大（高2）【札幌東高校】、小森真里奈（高2）【江戸川学園取手高校】、
 佐々木飛鳥（高3）【八戸工業大学付属第二高校】、鮫島朋義（高3）【桐蔭学園】、
 寒川正敏（高2）【関西創価高校】、橋畑隆幸（高2）【八戸西高校】、福市有希子（高1）【横浜雙葉高校】、
 久保田貴洋（高3）【桐陽高校】、佐藤優衣（高2）【盛岡第三高校】、堂園ゆかり（高2）【鹿屋高校】、
 中島宏和、安原俊介（高3）【木曽高校】
- 34 手作り望遠鏡はどこまで見えるか？！ - 500 円の挑戦 - <ポスター>
 倉又千咲、菅原 希、鈴木万里奈、堂前亜子、室田美夏子（中1）【遺愛女子中学校 地学部】

※口頭発表は質疑を除いて6分です。質疑はセッションごとにまとめて行います。

年会実行委員会

委員長	土 居 守	(東京大学)
委 員	児 玉 忠 恭	(国立天文台)
	下 条 圭 美	(国立天文台)
	藤 本 龍 一	(宇宙科学研究所)
	百 瀬 宗 武	(茨城大学)
	山 村 一 誠	(宇宙科学研究所)
	鈴 木 知 治	(東京大学)
	加藤万里子	(慶應大学) 保育室担当
	吉 川 真	(宇宙科学研究所) ジュニアセッション担当

年会開催地理事

佐 藤 修 二 (名古屋大学)